

I K U S E I

わくせいの

2017 55



CONTENTS

■巻頭言

- 馬の福祉と JRA の引退競走馬への取組み
上野 儀治 (JRA 馬事部生産育成対策室長)……………1

■特 集

- 平成 28 年度 育成技術講習会 講演録……………3
演題：「競馬と馬術の融合 競馬術について～競走馬に必要なハミ受けについて～」
講師：JRA 馬事公苑 北原 広之 氏
- 牧場就業者参入促進事業
「競走馬の牧場で働こうフェア BOKUJOB2017」……………15

■行 事

- 平成 28 年度 育成等に関する懇談会……………18
- 平成 29 年度 定時総会開催……………19

■事 業

- 育成技術講習会……………20
- 育成技術表彰事業……………22
- 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業……………35
- 競馬関連機材等有効活用事業……………36
- 軽種馬経営高度化指導研修 (人材養成)……………38

■お知らせ

- 賛助会員のご紹介……………39
- 愛馬の健康管理は 3 種類の予防接種から……………40
- 地方競馬の馬主になりたい (NAR) 告知……………41
- あなたも装蹄師になりませんか？……………41



題字 前会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

馬の福祉と JRA の 引退競走馬への取組み



馬事部生産育成対策室長
上野 儀治

JRA の 3 月定期人事異動で、生産育成対策室を担当することとなりました上野儀治です。生産育成担当とは言え、競走馬育成協会会員の皆さんに育成の話をする事は、まさに「釈迦に説法」。気が引けます。そこで、馬の福祉を踏まえた最近の JRA の引退競走馬の取組みについて紹介したいと思います。

「馬の福祉 (Horse Welfare)」は国際的に大変関心の高いテーマになっており、昨今の動物の福祉に対する意識の高まりは、欧米やオーストラリアの競馬興行にさまざまな影響を与えかねない状況になっています。競馬とは異なりますが、豪州やマカオのドッグレースは動物愛護の観点からその廃止が取り沙汰される事態になっていることをご存知の方もいらっしゃることでしょう。このような状況に危機感を持った競馬主催者の統括機関である IFHA : International Federation of Horseracing Authorities は、馬の福祉委員会 (Horse Welfare Committee) を 2010 年に設置し、競走馬の福祉の向上に本格的に取り組みはじめました。～私は、この委員会の委員として「Care of Racehorses After Racing : 引退競走馬の保護」に、僅かな間ですが係わったことがあります。そのような縁からこういった内容の記事を書くことを思い立った次第です～ 本年早々、JRA は「ルールの国際調和と動物愛護、馬と騎手の保護」といった理由で、競馬で使う鞭をパット付き鞭に限定したり、騎手の落馬再騎乗を禁止しました。近年このような馬の福祉に配慮したルールが次々と導入されているのは、「将来にわたる安定的な競馬施行のためには、出走前から競走中、引退後を含めた全ての期間において、競走馬の福祉への配慮が欠かせない」という IFHA の考えの一つの表れといえるでしょう。

それでは、競走中はさておき、引退後の競走馬のケアの具体策としてはどのようなものがあるのでしょうか？その代表的な取組みの一つとして、「第二

の人生 (馬生) を送るための、(乗用馬等の転用にむけた) 再調教に関する支援」が挙げられます。例えば、英国の RoR : Retraining of Racehorses という慈善団体は英国競馬統括機構 (BHA) のサポートを受け、「引退競走馬の再教育」や「元競走馬限定の馬術大会の開催」を実施し、サラブレッドの再就職を促進する試みに取り組んでいます。また、米国の TAA : Thoroughbred Aftercare Alliance という組織は、サラブレッドのアフターケアを行う優良団体を認定し、それらの団体に資金援助する事業を実施しています。このような国際的な流れを受けて、2016 年 7 月には競走馬の生涯ケアや再調教を促進する The International Forum for Aftercare of Racehorses (IFAR) が発足し、IFHA と連携し競走馬の生涯にわたるケアに取り組むことを表明しています。ちなみに、この団体は世界最大級の生産競馬事業体であるゴドルフィンがバックアップしてきた団体です。

それでは、日本の状況はどうでしょう。ご存知のように、わが国でも重賞勝ちするなど一定の活躍をした馬を繋養する牧場に補助金を交付する「引退名馬に関する繋養補助事業」や引退競走馬を再調教し競馬場の誘導馬や競馬学校の教育用馬として活用する活動などが実施されています。再調教されたこれらの馬の一部は、その適性に応じて大学馬術部に寄贈され競技馬として活躍している例もみられます。しかし、この再調教は JRA が必要に応じてその都度実施しているもので、JRA の事業として体系化された業務とまでは言い難いものです。

少し話は飛びますが、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会の馬術競技が、JRA 馬事公苑で開催されることになりました。そのため、現在、馬事公苑は全面的な改築が急ピッチで進められています。2019 年には施設の一部を竣工させ、プレ大会を開催しなくてはなりませんから、まさに待ったなし

の状況です。そのため、馬事公苑は今年1月から休苑。繋養されていた51頭と苑長以下の職員は、今年のためにJRA競走馬総合研究所本所跡地（昔、宇都宮育成牧場があった場所です。JRA競走馬総合研究所本所は、昨年3月に同栃木支所に移転・統合されました）に移転しました。

ここで、やっと本題なのですが、JRAはこの移転先である総研跡地で、馬事公苑スタッフによる「引退競走馬の乗用馬転用のためのリトレーニングに関する調査・研究」に着手しました。その背景には、これまで述べてきた国際的な潮流はあるのですが、この活動は、何より私達JRA職員自身が「引退競走馬のために何かお手伝いはできないか？」との問いに対する一つの回答であり、また競馬を楽しんでいる馬主や競馬ファンに末永く競走馬と競馬を応援してもらうための大切な取組みであると考えています。

諸外国では、多種多様な馬達の一部がサラブレッドですが、日本では、繋養されている74000頭の馬うち51000頭（約7割）がサラブレッド。一般の日本人が、馬と言ってまず頭に思い浮かぶのは「競走馬」に違いありません。それだけに、JRAのこの取組みが“わが国の馬の福祉の向上”に果たす役割は小さくないと考えています。現時点では、このリトレーニングに関する調査・研究は、文字通りその端緒に就いたばかりで、まだまだ小規模なものです。リトレーニングが効果的かつ効率的に行えるよう実践・研究チームを設け、自ら競走馬のリトレーニングを実践しつつ研修会や勉強会を通じて先進国の技術の習得に努めています。この活動が実を結べば、体系的なリトレーニングプログラムが確立され、乗用馬への転用が促進されることでしょう。また、将来的には障害者乗馬やホースセラピーにもっとサラブレッドが利活用される活動に発展していく可能性も秘めています。この活動を担当しているのは同じ馬事部の馬事振興室ですが、我が生産育成対策室の一員も競走馬育成の経験を活かしながらこのプログラムをサポートしています。引退競走馬がこれまで以上に人との係わりを保ちながら、第二の人生を過ごせる環境が整う日が来ることを、私も馬事部の一員として心から祈っています。

欧米では、競馬産業の構成者、すなわち、競馬主催者、馬主、調教師、生産者などが、それぞれの立場において、引退する競走馬が人道的な処遇が受けられるよう応分の役割を担う責任を負っているとみ

なされており、動物福祉の世界的な進展とともに、その責任の履行を求める社会的要求は強まっています。遅かれ早かれ、日本でもこれは重要な課題となるのでしょうか。それが、世界の趨勢ですから是非も無い事ですね。引退競走馬の適切なケアは、競馬産業が将来に亘り社会に受け入れられ、永続的に発展するために避けては通れない道です。育成牧場の皆さんにも協力をあおぎながら、競馬関係者が一丸としてこの課題に対応しなくてはならない時代はすぐ目の前にきているのかもしれない。

さて、一步踏み出したJRAのリトレーニング業務。今後どのように発展していくのか、注目していただきたいと思います。その上で、同じ競馬産業の一員として応援いただければ、この稿を草した身としてはこの上もない喜びです。今回は、私の拙文を読いただきありがとうございます。最後になりましたが、育成協会会員の皆様の益々のご活躍を祈っております。

平成28年度 育成技術講習会 講演録

	北海道地区	関東地区	関西地区
講師	JRA 馬事公苑 普及課長 北原 広之 氏		
演題名	『今さら聞けない調教法』 競馬と馬術の融合・競馬術について —競走馬に必要なハミ受けとは— 調教の進め方の提案	競馬と馬術の融合・競馬術について —競走馬に必要なハミ受けとは— 調教の進め方の提案	
開催日時	平成28年10月26日(水) 18:00-20:00	平成28年11月9日(水) 17:00-19:00	平成28年11月16日(水) 17:00-19:00
場所	新ひだか町公民館・ コミュニティーセンター (日高郡新ひだか町静内) 古川町1-1-2	美浦トレーニング・センター 厚生会館本館1階体育館 (茨城県稲敷郡美浦村) 美駒2500-2	栗東トレーニング・センター 厚生会館別館2階大会議室 (滋賀県栗東市御園1028)

主催：公益社団法人 競走馬育成協会

共催：日本中央競馬会（JRA）・公益財団法人 軽種馬育成調教センター（BTC）



美浦TCにおいて講演中の北原氏



栗東TCにおいて
熱心な聴衆で埋め尽くされた会場

各講習会冒頭では、それぞれ競走馬育成協会北海道地域団体（支部）長・本協会副会長理事の飯田正剛氏、本協会副会長理事 佐藤光信氏、競走馬育成協会関西地域団体（支部）長・本協会理事の中内田克二氏より挨拶があった。

（司会進行；本協会 業務部長 遠藤由佳氏）

北原 広之 (きたはら ひろゆき)

Hiroyuki Kitahara

- ・1971年 (S46) 生まれ 東京都出身
- ・1979年 (S55) 8歳の頃にJRA馬事公苑にある弦巻騎道少年団に入団し、ポニー騎乗から軽乗を始める。その後、高校まで馬術を続ける。
- ・1991年 明治大学(法学部)入学 馬術部に入部
- ・1994年 全日本学生馬術大会 馬場馬術個人優勝
- ・1995年 日本中央競馬会に入会
- ・1999年 2年間ドイツのHubertus Schmidt氏(アテネ五輪馬場馬術団体金メダリスト)の下で研修を受ける
- ・2001年 帰国 研修中にホワイミー号(当時5歳)を購入し、低いクラスからグランプリクラス(8歳時秋)まで日本で調教した
- 11月 全日本馬場馬術選手権 3位 ヒボス号
- ・2002年 アジア大会(プサン韓国)
- 10月 馬場馬術団体 銀メダル
個人4位 ウサギヨウジンボウ号
- 11月 全日本馬場馬術選手権 準優勝 ヒボス号
- ・2003年 全日本馬場馬術選手権
準優勝 ホワイミー号
- ・2004年 全日本馬場馬術選手権
優勝 ホワイミー号
- ・2005年 全日本馬場馬術選手権
優勝 ホワイミー号
- ・2006年 全日本馬場馬術選手権
優勝 ホワイミー号
(3連覇)
- ・2007年 ホワイミー号と再びドイツへ(シュミット氏厩舎)、国際競技に多数出場(ホワイミー号・カバレロ号)
- ・2008年 北京五輪予選(カンヌ)に日本代表(法華津・八木・北井・北原)の一員として団体出場枠を獲得するも、チーム入りできずに帰国
- ・2009年 国内での国際競技(CDI)に出場し、世界馬術選手権大会(WEG)出場権利基準を獲得(1回目、2回獲得が必要)
- ・2010年 国内での国際競技(CDI)に出場し、世界馬術選手権大会(WEG)出場権利基準を獲得(2回目)し、日本馬場馬術チーム入りを果たす
- 10月 世界馬術選手権大会2010
Alltech FEI World Equestrian Gameに出場
(アメリカ ケンタッキー)
- ・2011年 全日本馬場馬術選手権
準優勝 カバレロ号
- ・2012年 (H24)『JRA Dressage Training』を執筆
馬事公苑より発行
HPより電子ブック取得可能
検索は

- 10月 関東(美浦TC)・関西(栗東TC)地区において育成技術講習会の講師として講演『馬の調教について～馬場馬術から競走馬の調教への提案～』
本協会“いくせい”2012年50号に講演録掲載P4-P8(育成協会HPに掲載)
資料⇒<http://www.ttda.or.jp/journal/pdf/ikusei50.pdf>
- ・2015年 (H27) 全日本馬場馬術選手権準優勝 ウィネットウ号
(同馬は、セントジョージクラスからグランプリレベルまで1年掛けて調教して挑戦)
- ・2016年 (H28) 6月 美浦・栗東TC乗馬苑において『馬術講習会-騎座の作り方と効用、半減却を取り入れたトレーニング、馬の問題点の解決方法-』
動画配信⇒競走馬育成協会HP内
事業内容⇒育成技術講習会へ
<http://www.ttda.or.jp/biz/kosyu/20170610.html>
- 10月 北海道地区、11月 関東(美浦TC)・関西(栗東TC)地区において育成技術講習会の講師として講演『競馬と馬術の融合-競馬術について-競走馬に必要なハミ受けとは-調教の進め方の提案』
資料⇒競走馬育成協会HP内
事業内容⇒育成技術講習会へ
<http://www.ttda.or.jp/info/pdf/20161121.pdf>
動画配信⇒検索
検索は
- EQUUSONLINE
<http://www.equus.co.jp/2017/02/06/>

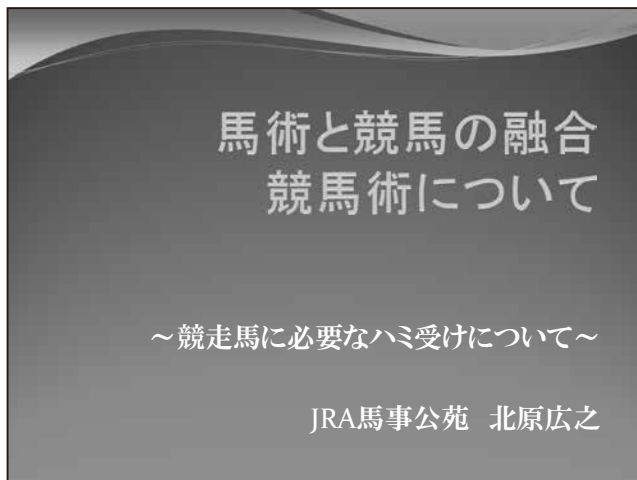
関連リンク

- ◆「ドレッサージュホースを育てよう」
(日本馬術連盟機関紙「馬術情報」に連載中※毎月更新)
元競走馬のオースミイレブンを馬場馬術用馬に再調教している過程を細かく解説
<http://company.jra.jp/bajikouen/temporaryclosed/dressage.html>
- ◆「競馬術通信」(※不定期更新)
<http://company.jra.jp/bajikouen/temporaryclosed/keibajutsu.html>

講演録

平成28年11月16日(水) 開催

関西地区(栗東トレーニング・センター)



JRA馬事公苑所属の北原広之です。既に北海道静内、及び、美浦トレーニング・センターにおいて、同様の講演をさせて頂く機会がありました。そこにいらした来場者から伺った話を参考にしながら、この栗東トレーニング・センターにおける講演会を進めていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

私自身は馬術を専門にしており、特に馬場馬術を20年以上研究しながら多くのサラブレッドを乗用馬に調教してきました。しかしながら、私には現役の若い競走馬を調教して競馬に送り出すという経験はありません。これからお話する内容は、現役の競走馬の調教に適合するように、できるだけ工夫しているつもりですが、実際に競走馬を調教されている皆様に取捨選択をしていただければ良いと思います。

馬術の要求は競走馬には高すぎると思われる関係者の方が多くおられるのも承知しています。しかし、ここ数年、競走馬の調教に関して、もっと何かできることがあるのではないかと考えている競馬サークルの方々がいらっしゃるのも事実です。馬術と競馬という枠にとらわれることなく、馬本来の能力を引き出す方法を皆様にお伝えできれば、また、皆様と一緒に考えていければという思いでここに立っている次第です。

先月の凱旋門賞も非常に残念ではありましたが、近年、日本の競走馬は世界レベルに達していると思います。毎年、強い馬を世界に送り出している日本の競馬界は、世界的にも注目されています。近い将来、日本から凱旋門賞を制する世界一の競走馬が出てく

るのは時間の問題です。

しかしながら、その中で、厳しい言い方になりますが、果たして我々の騎乗技術は競走馬と共に世界レベルに達していると言えるのでしょうか？もちろん、私が取り組んでいる馬術においても同じことが言えます。欧州からトップレベルの馬術用馬を買ったとしても、人間の技術が世界レベルに追いついていないため、その人馬では世界レベルに到達しない、こんなことの繰り返しです。

日本の競走馬の実力は、もうすでに世界トップレベルにきています。そこで、「日本の競走馬は素晴らしい、それは、その馬たちを正しく調教して送り出している日本の騎乗技術のレベルが高いからだ」と、言えて初めて日本の競馬は世界一のレベルに到達している、と胸を張れるのだと思います。

さて、これから皆さんのお手元にお配りした資料に沿ってお話ししていこうと思っています。最初は、馬に乗るには私たちがどういった心構えで乗っていくべきかを私自身の考えでまとめてみました。

馬に乗る人は・・・

- 馬を信じる
- 馬の気持ちになる
- 馬に寝をする
- 馬の背では怒りの感情を抑える
- 馬に矛盾を与えない
- 馬の動きに影響されない
- 馬に正しい扶助を与えられる感覚を持つ
- 馬の背から馬を心地良く快適に安心させることができる
- 馬について研究する

まず「馬を信じる」こと。どの馬にも能力があります。前に行く、走る能力があります。その馬の持っている力を僕らが信じてあげなければ、馬も信じてくれません。

「馬の気持ちになる」こと。これは自分が馬だったらどう感じるか？実際に誰かをおんぶした時に、上の人がバランスを崩したり後ろに反り返ったりしたときに、自分はどう感じるか、と自分を馬に置き換えて考えることは調教上大切なことです。

「馬に寝をする」こと。馬に乗る以前に人間と馬との主従関係を構築するナチュラルホースマンシップの方法です。最低限、馬に寝をする知識と技術を我々が持っているべきです。

また、「馬上では、言うことを聞かない馬への怒りの感情を抑える」こと。これはとても大事なことです。我々が感情的に怒っても、馬はそれを怖いとしか思わず、そこから逃げようとします。我々が、なぜそのようなことになったのか、冷静にその方策を考えて次に実践したほうが結果に繋がります。

「馬に矛盾を与えない」こと。騎手が、馬に行けと指示を出しながらも、引っ張っているなどが典型的です。馬は非常にシンプルです。馬がシンプルなので我々もシンプルな動作をする、これに尽きると思います。馬に乗っている時も下に降りている時も、矛盾を与えないことです。

「馬の動きに影響されない」こと。馬が動いている中で我々自身はその動きに煽られる、引っ張られる、バランスを崩すなど、馬が走ることに集中できないような環境を作らないように、自身のトレーニングをしておくべきです。皆さんは、担当馬が多くいるので、自分自身を訓練する時間を割くことは難しいかと思いますが、取り組むことを避けてはなりません。馬の動きに影響されるのではなく、逆に影響を与えていける騎手になっていかなければなりません。

「馬に正しい扶助を与えられる感覚を持つ」こと。我々は馬上で、今このケースでどんな扶助を出せばいいのか、と迷っている時間は多くはありません。その瞬間に、多くの経験と自分の引き出しから瞬間にこうしよう！とすぐに適切な指示を与えられる感覚を身に付けておく、引き出しを増やしていくという部分は我々にとって必要です。

「馬上から馬を心地よく快適に安心させる」こと。馬は最終的には安全と快適を求めていく動物ですので心地よく感じる、走ることに集中できる、そういった環境を作ってあげられる騎手になることが必要です。

そして「馬について研究する気持ちを持つ」こと。これは大切なことです。馬の行動パターンとか、馬の問題を把握したり、解決策を探ったり、馬について研究する気持ちを持つことが自分の技術の向上に繋がります。

騎乗者の扶助

- 騎座
- 拳
- 脚

大きく3つに分類された身体各部を独立的に使用したり、総合的に使用したりして馬への扶助とする

馬上で騎乗者が使える身体的部位は、騎座（きざ）、拳（こぶし）、脚（きゃく）と大きく三つに分類できます。例えば、あの人が乗ると馬の体勢が変わる、あの人が乗ると馬が落ち着く、あの人が乗ると頭を上げたりする馬もハミを取ってリラックスする、ということがあります。では、その優れた騎乗者とは何が違うのか？それは、この3つの部位の使い方の加減だけです。我々は皆同じ人間です。しかし、同じ人間でも人によって馬の体勢、馬の気持ち、馬の集中力が変わることは事実です。

騎座

- 扶助の中核的役割を果たし、馬の動きを最も感じることができる扶助

(騎乗者に求められる条件)

- 馬の背中動きに随伴し同調する感覚を持つこと
- 馬の速歩動きに影響されず、正反動が取れること
- 馬の背中動きに随伴しながらも、その動きを抑えることもできること
- 騎座だけを独立して使用できる

騎座ですが、競走姿勢になると踵が短くなり騎座自体が無くなります。競走中に馬の背中に座ることはもちろんありません。それが、競走馬が最も早く走れるようにするための体勢です。しかし、全く騎座の効力を持つ扶助が無くなっている訳ではありません。その場合、騎手の根幹を成すのは座骨などの騎座ではなく脚部が担っています。それが重心の中心だったり、馬に前進するための負荷をかけていくための基礎になったりします。騎座の必要性は、あぶみが短くなった中でも存在すると認識していただ

ければと思います。

馬上での騎座は、推進になったりパワーを蓄積する働きをしたりと多様性があります（競馬術通信3参照）。騎手は、馬の速歩の動きに影響されず、正反撞を正しく取れるということが競馬のダクの中でも必要になってきます。馬の背中の動きに随伴しながら、その動きを抑えたり溜めたりする事もできます。常歩で歩いている中でも、騎座の同調加減を抑えることによって、馬の前進する力を自分の騎座の中心にまとめられる感覚にもなります。それがダクでも、キャンターでもその騎座に溜められる感覚が「半減却」という現象になります。

拳(手綱)

- 馬へ進行方向を示すだけでなく、コントロールの指示や馬の体勢までも変えることができる重要な扶助

(騎乗者に求められる条件)

- 馬の動きに影響されて拳が動かないこと(身体各部の独立)
- 馬の口に対して柔軟に拳が反応すること
- 左右に拳を振って使わないこと
- 拳の扶助は使い続けないこと

そして、上述した3つの部位の1つの騎座だけを独立して使用出来る、2つ目の拳と騎座を連結して使い分けるなど、扶助の組み合わせが生じてきます。騎座と拳の関連性については、騎座の作用を強く使いながら同時に拳の手綱扶助も使う。それにより馬が騎手が求める体勢になったり譲ったりの反応をしてきたら拳の扶助だけを緩め、騎座扶助はそのまま維持する、など細やかな組み合わせを作り出します。拳だけコンタクトを緩めることが出来る、また騎座扶助と連結できる、でもどちらかを緩めて馬が快適になるところを探す…。繋げたり、切り離したりという感覚を生むためには、騎手は自身のバランスを自ら保つ事が出来る、手綱にも脚でもどこにも捕まらなくても馬に付いていけることが必要です。

拳(手綱扶助)は、馬の進行方向を示すだけでなく、コントロール、溜め(半減却)、馬の体勢も変える事が出来る扶助であり、重要なファクターになります。そこで、馬の口に対して柔軟に拳が反応することが大切です。拳はただ強く引くだけ、ブラブラに譲るだけではなく、その中間だったり、馬が快適と思え

るコンタクトを感覚として持っているかも必要です。手綱を引いたり譲ったりする力加減を、最小の1か、最大の10かだけでなく1~2.3.4.5.6.7.8.という細かな感覚をいかにして作り出し、馬に伝えて折り合いを付けるかの感覚も必要です。

また、左右に拳を振って使わない事です。拳の抜き差し、のこぎりみたいに左右に拳を使ってハミ受けの形を作ろうとすることは百害あって一利なしです。そして拳の扶助は使い続けない事です。例えば、口が強い、拳に寄り掛かって、拳を下方へ引っ張り続けるなどのケースがあります。騎手は、その馬の誤った反応を支えてキープする必要はありません。拳の扶助は、使ったらその後馬がそれをどう感じたのか、という馬からのレスポンスを感じる為に、「使う、止めてみる」の動作を行い、どういう反応があったのかを騎手が感じるための時間が必要になります。

ここに拳扶助を使う際の馬との会話を再現してみます。「さあ拳を使うよ、一旦プレッシャーを解放するよ、どうだい? どう反応する? そうか、まだ理解しないか、それならもう一度使うよ、一旦譲るよ、あ! そうそう! そういう反応を求めていたんだよ、それじゃあ次はもっと小さな力加減でも理解できるよね?」こうした馬との駆け引きのやり取りが必要になります。そんなこと全速力で走っている馬に通用するわけない、という声が聞こえてきそうですが、それも分かります。だからこそ、こうしたやり取りの関係を全速力ではない動きの時点で築き上げ、お互いの約束事を構築する必要があるのです。

脚

- 馬への前進を促し、馬体の屈曲や推進力の方向性を示す扶助

(騎乗者に求められる条件)

- 脚扶助も合図であり、脚を馬体に締め付け続けないこと
- 曖昧な合図にならず、明確に馬に伝わるように使うこと
- 脚部全体が安定し、上半身の安定を助けること

次に脚扶助に関する話です。脚扶助は、馬を前進させるきっかけの扶助になります。また怠惰な馬を本気にしたり、物見をしてすくんだ馬を励ましたりする際に、脚扶助は絶対的な効力を持っていなけ

ればなりません。脚扶助も上述した拳扶助同様に、使い続けるものではありません。反応の鈍い馬にこそ脚扶助を使い続けるべきと思われがちですが、馬はある程度の痛みには慣れて鈍感になっていきます。脚を使えば使うほど効力は無くなっていきます。こうした鈍い馬には、脚扶助を絶対的前進扶助と馬に理解させることが必要です。その方法は、騎手の脚部の踵を①馬のお腹の毛に触れるくらいの圧迫、②お腹を圧迫、③軽打、④強打というように段階的に強めていきますが、大抵は④の最終段階でようやく反応するレベルだと思います。しかし、この④で馬が反応しなければ、手綱を全く持たずに馬が驚くほどの強打で目を覚まさせ、前へ走り出させる必要があります。必要に応じて、④の後に鞭でのペナルティを与えて、脚扶助に反応しなければ懲戒が待っていることを教えます。そして次の扶助も①から行います。恐らく馬は早い段階で前進する反応をするでしょう。そこで馬を良く褒めてあげます。この時、騎手が馬の反応に遅れて手綱を引っ張ってしまうようであれば、馬にとっては大きな矛盾を感じますので注意が必要です。こうしたことを繰り返して脚扶助の絶対性を強化していきます。

そして脚部は馬に対して働きかける扶助ではなく、動く馬上で我々の身体を支えるために大きな役割を果たしてくれます。どんな建物も基礎のクイがあって、樹木も根があって初めて安定するものです。それと同じように、脚部は我々の上半身を安定させる役割をしてくれます。上半身や騎座を安定させるには、脚部の修正が重要になることを忘れてはなりません。

馬術技術が馬にできること

- 馬と騎手の間に主従関係を構築する
- 馬を騎手の手の内に入れる
- 馬が騎手の意志を感じとれるようにする
- 馬に安心を与える
- 馬を本気にさせる
- 馬にハミの作用を受け入れさせる
- 馬体の歪みを矯正する
- 馬のストライドをコントロールする

競走馬に必要なハミ受け

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 頭頸を上げてハミを嫌う (Above) ☆原因 騎手の導きの悪さ ☆マイナス面 <ul style="list-style-type: none"> • 緊張度が強い • 背を張る • 後肢が踏み込み難い • 馬体を伸展しない | <ul style="list-style-type: none"> • 頭頸を下げてハミにもたれる (Below) ☆原因 先天的 後天的 ☆マイナス面 <ul style="list-style-type: none"> • バランスが前のめり • 後軀に力が溜まらない • 馬体が縮まらない • ハミに掛る重さを騎手が支える |
|--|---|

ハミ受けとは、馬の頸（くび）が丸くなり屈撓（くつとう）している外見的な状態を言うわけではありません。本来は、後軀から生まれた前進氣勢が腰、背中と肩から頸を通してハミまで到達している（透過性）状態を、騎手がハミを通して受けていることを言います。馬術では、馬を収縮させる割合が高く、必然的に屈撓した体勢になります。そこまでの収縮を求めない競走馬において、その外見的な形だけを求めることは無意味だけでなく、逆に大きな問題を生むこととなります。本来のハミ受けとは、馬自身がバランスを保ち（セルフキャリッジ）、ハミを通しての扶助に従う関係が構築されていることを言います。

2つのパターンの解決法

Aboveパターン

- 常歩運動～
- ①輪乗り運動(直径20m以上)
 - ②内方姿勢
 - ③頭頸を内方に向ける(内方脚)
 - ④頭頸を下方へ導く(外方肩外)
 - ⑤ハミへのプレッシャーオフ

↓
頭頸を下げリラックス

Belowパターン

- 常歩運動～
- ①直線運動(輪乗りも可)
 - ②脚で後肢の踏み込みを促す
 - ③歩幅を縮める
 - ④騎座の随伴を小さくする
 - ⑤拳を最少の扶助にする

↓
頭頸を上げてセルフキャリッジ

これから話すことについてですが、ハミを通しての扶助から逃れようとする馬のタイプを2つに分類して、そのタイプ別に解決方法をまとめてみたいと思います。

まず一つ目は、ハミを掛けると頭を上げてそれから逃れようとする ABOVE（アバブ）タイプです。その原因は、先天的な馬の体型、例えば、元々バラ

ンスが起きた体型で頸が高く、また、気性が激しく緊張しやすいタイプの馬に見られます。そして後天的な原因としては、騎手の誤った拳の扶助操作によって馬がハミは痛くて苦しいと思ひ込むことがあげられます。拳よっての圧力がハミに掛かるたびに、それから逃れようと頭を上げる癖がついてしまいます。これらの問題によって、引き起こされるマイナス要因は、まず後軀から生まれた前進氣勢が、頭を上げることによって硬くなった背中で止まってしまう、ハミまで到達しない（透過性がない）状態になってしまうことです。これでは、馬体全体を伸縮することができず、ストライドが最大限に伸展していかない、結果としてその馬の持つトップスピードを発揮しきれないことに繋がってしまいます。

二つ目は、ハミを下方へ引っ張るようにもたれるBELOW（ビロー）タイプです。この原因は、先天的な馬の体型、例えば元々馬の頸差しが低い体型の馬で、騎手がハミに圧力を掛けて作用を求めると、頸を低くしてバランスを前に移してしまうことにあります。これらの問題によって引き起こされるマイナス要因は、バランスが前に移ってしまうことによって、頭が下方へ下がり馬体が伸びきった状態になり、馬体を縮めることができなくなってしまうことです。馬体が縮まらなければ、後軀に力が溜まらず、それにより伸展していくこともできずストライドが伸びていなくなり、その馬の持つトップスピードを最大限に発揮することができなくなってしまう。

大きく分類してこの二つのタイプを挙げました。これからその解決方法をまとめたいと思います。まず、ABOVEタイプの場合の解決方法ですが、最初は常歩（なみあし）運動という一番小さい動きで修正していきましょう。このタイプは、気が強い馬が多いため、上がってくる頭を両拳で抑えつけようとしても反発を生み関係は悪化するだけです。まずは輪乗りもしくはカーブのある輪線（りんせん）を作ります。そこで内方と外方を作り出し、内方から外方に向かって馬を押し出すように内方脚を使います。そうすると馬は内方に向かって馬体が曲がりやすくなるので、同時に内方の手綱で馬の頭頸を内側に屈曲させます。外方の手綱はある程度コンタクトを維持しながら内方手綱を開くように使って馬の頭頸を内側に向けます。そうすると、馬は頭頸（とうけい）をやや下げる反応と仕草が生まれます。その兆しが現れた瞬間に使っていた内方手綱の使用を止めて解放し、その反応をしたことによって楽に感じることを

を教えます。その反応を得るためには、一時的に強い手綱操作になり強いプレッシャーをハミに感じるまで行うことも必要です。しかし、それは馬とケンカをするためではなく、明確なきっかけを作るためです。はっきりした反応を馬から得るために、騎手もはっきりとした扶助で伝える必要があるのです（詳細は競馬術通信を参照）。


次に、BELOWタイプの解決方法です。この問題の解決方法は、感覚的に習得することが難しいかもしれませんが、まずは単純な理論を理解してしましましょう。このBELOWタイプは、①頭頸を下へ伸ばしてバランスを崩すタイプと②バランスは崩さず、頸を短くして頸を譲り空にして逃げる空バミタイプに分けられます。①の場合は、常歩運動で行い、直線運動で行うことができます。これは普段競走馬を調教する際に既に多く取り入れている運動ですので、このような症状がある馬には先天的か後天的かにかかわらず、毎回騎手が意識して修正を促すべきです。頭頸を下へ潜るようにハミにもたれる体勢になると、後肢の踏込みは浅くなります。まずはそこに注目して、後肢の踏込みを促します。そうすると、馬は踏込みと同時に速く歩こうとしますが、ここで使うのが騎座です。通常、常歩で馬の背中で同調した動きを取っている騎座の動きを、やや重たくして馬が前に行き難くします。馬の前に行こうとする勢いを手綱で抑えてしまうと、馬の頸の上下の動きを阻害してしまうことになるのと、また余計にハミにもたれてしまうことにもなります。そのため騎座に深く座るようにして馬の動きを制限します。そうして手綱を極力使わないで馬の動きをコントロールすることにより馬の頭が上がってくるという反応が現れます。馬に対し、脚または軽い鞭で、後肢を踏み込め→手綱を極力使わず騎座で、速くなるな、という要求をすると、動きながらも前に行けないため、頭を上げてバランスを起こすことに繋がってきます。後肢を入れて後軀が沈下してくれば、当然前軀が起きてくるからです。馬が頭頸を下げてバランスが低くなるからといって、手綱で引っ張りあげたとしても、馬の体勢自体に変化を与えていなければ、また馬はバランスを前にしてもたれてきてしまい、何度も何度も手綱で馬の口を弾くように使うという意味のなだけでなく悪影響を与える扶助を出し続けることになってしまいます。

馬には私たちと同じようにそれぞれの身体のバランスがあり、これら二つのパターンのどちらかの反

応をしてしまうことがあります。私たちは、誤った馬のバランスをも変える技術を持たなければなりません。それを身に付けるために日々考え、努力していければと思います。

正しいハミ受けとは(競走馬)

- 馬の頸の形ではない(屈撓ではない)
- 馬がバランスを保っている状態(セルフキャリッジ)から
- 馬との繋がりが感じられるもの



半減却(ハーフフォルト)・透過性(スルーネス)

ウォームアップと「輪乗り」のすゝめ

直線運動	輪乗り運動(20m以上)
<ul style="list-style-type: none">全速力で走る基本姿勢競馬の実践的な真直性を保った体勢で運動後肢の真っ直ぐな踏み込み	<ul style="list-style-type: none">曲線運動で内方と外方を意識左右の屈曲による柔軟性の養成頭頸の伸長の体勢作り

このような周囲に気を取られて興奮状態にある馬に乗りながらも、馬の意識を乗り手に集中させる方法をご紹介します。

騎手が馬の背に乗っていたとしても、馬は自分の身に危険を感じると直ぐに逃げる準備をするため頭を上げて周囲を見渡す本能を持っています。そうした外的環境に気を取られている状態のまま馬に乗っていることは危険です。騎手の指示に従っていれば安心だということを馬に理解させるためには、騎手が扶助を通して馬と会話する必要があります。それは、不安に思って興奮状態にある馬が騎手の指示に従わないからといって感情的になって馬に懲戒を与えても、馬は更に興奮状態になるだけで更に危険な状態になります。まずは力んでいる馬の背で騎手は冷静になり自らの力みを取り、リラックスします。そして、馬にクリアしなければならない課題を与え

ます。それが上述した ABOVE タイプの馬へ出す扶助と同じです。ここでは、輪乗りをしながら速歩(はやあし)をして、内方脚から外方へ推進し、内方手綱を開き馬の頭頸を内側に向け、それに反応したら手綱を譲り下方へ伸展するように促します。これを徹底的に行い馬との会話をずっと続けます。内方手綱を開くことにより馬が力まずに内方に向けるかというゲームを馬とします。そのゲームに馬を勝たせ続けるのです。勝つことによって騎手のプレッシャーから解放される楽しみを馬が学んでいくと、いずれは騎手の小さい力の扶助で馬が直ぐに反応するようになります。これを極めていくと、騎手を背にしている時はいつでも緊張せず、周囲の環境に左右されなくなっていくます。

「半減却」のすゝめ

半減却とは・・・

馬体にパワーが溜まっている状態にする現象のこと

Half	Halt
ハーフ	フォルト
半分	停止

今回の講演会の最も大きなテーマは、この半減却(ハーフフォルト)です。半減却とは、馬体にパワーが溜まっている現象のことです。車のギアに例えると、シフトダウンして3速や2速に落とす準備をするイメージです。

しかし、走っている馬に対しこの減速ギアを入れようとしたとき、ギアが入らずブレーキを踏み、そのブレーキまでも効かない状態は、パワーを温存するどころか、馬が騎手の減速の指示を無視して引っかかっていれば、無駄にパワーをロスしてしまうことになります。

この減速ギアの半減却は、失速のブレーキでもなく、減速した後にも一度前へ行く意欲までも奪うものでもありません。騎手の次のゴーサインを受けて再び温存したパワーを使って加速していくことを求めます。

半減却の効果

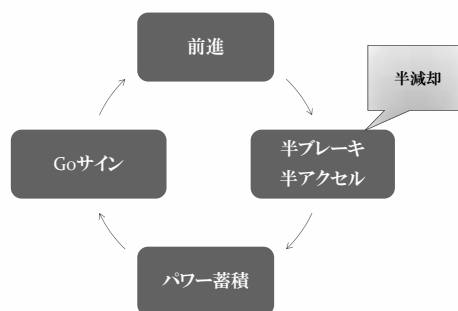
半減却は、いつでもどんな場面でも騎手の扶助と合図によって馬がそれに反応し実行しなければならない

- 後躯の踏み込み強化
- 後躯の筋力強化
- セルフキャリッジの確立
- 人馬の関係(扶助)強化
- 透過性の確立
- 集中力アップ

半減却を意識的に馬に求めることで、様々な効果を得ることができます。それは、バランス改善により、馬が自分でバランスを維持しているセルフキャリッジが生まれ、後躯のパワーアップに繋がります。バランスが前に行き、ハミにもたれている状態では後躯が後ろへ流れてパワーを蓄積できない体勢になってしまうため、半減却を生み出せなくなってしまいます。半減却を馬に求めていくと、後躯を最大限に使い、前躯と後躯の歯車が噛み合っ動くことを感じます。後躯から生まれた推進力が腰、背中、肩、頸、項(うなじ)を通してハミまで到達していることを言う透過性も半減却には必要になります。それらが確立してくると、馬は騎手の扶助に良く反応しながらも馬体は真直性を持ち、走ることに集中するようになります。また、半減却により減却ギアが馬の中でできるようになると、ペースコントロール(折り合い)や、ストライドコントロール(歩幅の伸縮)も同時に行えることになります。

こうして半減却の効果はいくつも良いことばかりですが、セルフキャリッジと透過性を築いていなければ半減却を求めて実行することはできません。セルフキャリッジと透過性は、上述した AVOBE や BELOW タイプの馬たちのバランスやハミ受けを変えるトレーニングをした結果、得られるものなのです。

半減却の好循環サイクル



ここまで馬をコントロールしてきて半減却を少しでも感じられるようになってきたら、半減却の好循環のサイクルはイメージとして騎手が持っておくべきです。この一連のサイクルの扶助に馬がいつでも反応するようにトレーニングすることにより、馬は小さな扶助と合図でいつでも反応するようになります。

半減却の扶助

目に見えない扶助によって人馬の関係が強化される

- ①馬の動いているパワーを利用する
足りない場合は上げる→脚扶助 騎座扶助 副扶助 鞭
(常歩・速歩・駆歩など)
- ②馬の動きと同調し、エンジン掛けながらブレーキを掛ける
減速させる→手綱扶助と騎座扶助との関連性
- ③馬が馬体にパワーを蓄積しながら減速したら扶助を緩める

それでは、そうした半減却をどのような扶助で調教していくかを考えましょう。非常に難しく考えがちですが、シンプルに説明します。皆さんは、馬を引き馬している時に、馬に人の存在を認識させているはずですが、人に対して馬が何も注意をしていないと非常に危険です。引き馬をしている時と騎乗している時に意識することは同じです。その考えがベースになります。

まず、馬の調教の基本は常歩です。馬との意思疎通がしやすいこの動きの中で、①馬が前に動いている力を利用して、動きを止めずに馬の前進氣勢を馬体に溜めるために、手綱を控えて馬の前進氣勢を抑えながら、騎座は推進し続けます。手綱を控え過ぎて減速し過ぎた場合は脚扶助で前進氣勢を呼び起こ

します。それまで前進していたうちの3割程度を抑えて、その分を馬体に溜めるイメージです。脚のアクセルを踏み前進しようと促しながら、手綱で抑え、騎座と手綱を連結させて減速ギアを掛けていきます。その手綱の扶助を馬が受け入れてくれるように透過性を感じながら半減却の状態を作り出します。

半減却のトレーニング方法

第1段階 常歩→ストライドの短縮→常歩

第2段階 速歩→ストライドの短縮→速歩

第3段階 駈歩→ストライドの短縮→駈歩

常にアクセルとブレーキを融合させて移行(ストライドの調整と減速)をする

半減却を実施する際のトレーニングパターンを決めておくと、いつでも実施しやすくなります。例えば、最初は通常の常歩から歩幅を詰めていき、馬が騎座と手綱の扶助を受け入れて、前進氣勢を持ちながらストライドを狭めてくることを確認したらまた前進してストライドを広げていきます。それを何度も繰り返し、騎手の小さな扶助でも馬が反応するようにしていきます。これは、引き馬などで、人がゆっくり歩いたり止まったりするのに馬が注意を払い、歩幅を合わせていくようなトレーニングと共通しています。これらが、常歩でできるようになれば、速歩でも駈歩でも実施していきます。動きが速くなっていくに連れて問題が生じてくれば、また常歩で確認し直していきます。

半減却の競走馬への効果

・馬のバランスの改善

↓
セルフキャリッジ

・馬体の伸縮度の増幅

↓
ストライドの増幅

・ペースコントロールの確立

↓
折り合い

全神経を集中させてトップスピードで走る競走馬を細かくコントロールすることは容易ではありません。また、細かくコントロールしようとし過ぎると、馬は騎手の指示を待ち過ぎてしまい全速力で走らなくなると考えることもできます。そのため、無闇に多くの指示を出すものではありません。しかし、馬との最低限の約束事は確立しておくべきです。それがこの半減却と言えます。この半減却を馬に通すためには、セルフキャリッジが必要で、その中で減却すると馬体を伸縮することができます。馬体を最大限伸ばして速く走るためには、馬体が縮まることが必要です。縮まるから伸びる、伸びていったパワーを再び半減却で縮めて、またそれを伸ばす。その繰り返しです。数センチで勝敗が決まる厳しい競馬の世界では、この馬体の伸縮こそが大切なはずで

馬こそ人を映す鏡

我々は、毎日馬を見ている
それ以上に馬は我々を見て感じています
馬に恥ずかしくなく
フェアに向き合う
そうして初めて馬は自分の全てを出そうとします

最後になりますが、私は、馬術競技などで優勝すると、「馬の能力で勝たせてもらった、この馬はもっとできる」と思います。我々は、一時の勝利に酔いしれ、技術を追求する気持ちを無くしてはならないと思います。未来には、才能豊かな馬たちが我々を試すために待っています。決して手を緩めることなく進み続けましょう。

ご清聴、ありがとうございました。

質疑応答

【質問者】 最近、騎乗時に“うわっパミ”になっていると言われまして、手綱を短く持ちすぎているからではとの指摘に手綱を長めで乗っていると、今度は、違う人に手綱が長すぎるから“うわっパミ”になると言われて混乱しています。手綱が短い時は単にハミを嫌がっているような感じで、手綱が長い時は、馬が勝手に行ってしまうので、それを人が抑えようとして、またそこで馬が嫌がるような感じです。結局、どうしてこうになってしまうのかと悩んでいます。

【北原】 “うわっパミ”というのは、馬があごを突き上げてハミを受け入れていない状態のことでしょうか？それは手綱が短い時も長い時も同じ状態になるのでしょうか？ということ、やはり、手綱の長さの長い、短いでは無いと思います。要は、先ほど述べたように、騎乗者がそれをどう受け止めていて、どう感じているか、どのように馬に作用させているかが全てかだと思います。騎乗者と馬との関係性がまだ薄いのではと考えられます。ただ手綱を持つのを強くとか、または、長くする、短くするのでは無く、手綱を通して馬とコンタクトを持ち、敢えて馬の姿勢を変えてみたり、真っすぐ皆で歩いている中で、少し自分の馬だけ減速してみたり、ちょっと右向けて歩いてみたりと、いろんなことを試しながら馬に影響を与える関係性と騎手の感覚を作っていくべきだと思います。

これはもう騎乗者自身の問題でもあるかと思います。馬が動いているのに対し、コンタクトが繋がるような状態を作り出すとよいと思います。手綱を使ってギュッと抑えるだけではなく、手綱・脚・シートを使って頭頸を下へ譲らせてみるとか、馬を右に向けてみて反応したら手綱を譲り、次は左に向けてみるとか、色々な状況を作り出す、敢えて作り出します。そして、いつでも馬の頭を低くしてみようとしたら出来るかどうか。馬とのつながりを確認してみる、馬とのつながりを作るための動作をやってみる、そういう状況を作り出して試してみるということを敢えてやってみると良いと思います。馬に跨りウォームアップする時間はあるはずなので、そのような時にぜひ試して欲しいですね。

“うわっパミ”の状態の時だけではなくて調教時にいろいろ確認していただければと思います。“うわっパミ”の時こそ、わざと頭を低くくさせるためにト

ライする調教方法など、調教に決められたルールはないと思います。馬が心地良く感じさせられる拳を持つことを目標として、強制的な拳にならないことです。馬の頭が低くなってくれたとしたら、それは馬にとって快適だったというサインでもあります。それを作り出すために、今、騎乗者が持っている決まりきった物の見方から脱した方が色々な発見が出来ると思います。失敗してもそれが次に繋がっていけば今はいいと思いますので、何もしないより、色々な事をたくさん試してみるのには良いことであると思います。試してみて自分の感覚というものが出来上がってくると思います。まずはやってみる事です。手綱の長さを変えるだけでなく、馬の体勢を変えようという意識を持つことが大事だと思います。

【質問者】 上級者と初級者の違いとは、個人的には騎座の違いではないかと考えているのですが、北原さん自身、馬に乗って騎座を作る際、意識している点を教えてください。また、騎座とは、馬の動きを邪魔しないというところに重点を置いていると考えてよろしいでしょうか。

また、競馬の世界では、騎乗者がだんだん乗れるようになってくる事を“あぶみが踏めるようになる”という表現を使って言うのですが、それは北原さん自身、馬場馬術であぶみが長い状態でもそういう感覚はありますか？

【北原】 競馬サークルの方々が、騎座という部分に非常に興味を持っていただけるのは嬉しい限りです。おっしゃる通り、あぶみを短くしても騎座は効いています。従って、馬の動きの中で騎座をどうやって作っていくかという部分では、まずは馬のゆっくりとした動きの中で、自分がこの馬の動きを全く邪魔していないかという感覚で乗れることが大切です。ただ、それがお腹を引っ込めて乗るのではなく、騎乗者の背と騎座を真っすぐに馬の背に作用させることができ、騎座で馬の動きを制御することもできる、同調も出来る、というフィジカル的な技術を持って乗れることが必要です。

常歩等小さい動きからその感覚を地道に作っていき、ダクやキャンターへと徐々にその幅を広げていきます。いきなり大きな動きからでは、ついていけないのは当然です。常歩でもダグでもキャンターでも、騎座が馬の動きを邪魔してないか、次に、自分の騎座で馬の動きに良い影響を与えているかという

ことを意識するようにしましょう。

騎乗時の馬はニュートラルな状態がベースであって、シートと騎座がギアになり、それを効かせたりニュートラルにも戻れたりすることが必要です。しかし、ベースであるニュートラル状態の騎座が出来ていなければギアは入らないので、まずは馬を邪魔せずついていけるニュートラル騎座を作っておき、そこから馬の動きに勢いをつけるギアを入れる扶助を作るようにしていきます。

“あぶみが踏める”感覚についてですが、馬場馬術をやっていて、最初はシート(騎座)で馬を御すイメージをすごく持っていました。今では、力をためて馬が少し浮いてくるようなパッセージ運動をする時に、自分はシートに座っているけれど、あぶみを踏んでいる感覚を強く感じます。従って、そういう意味では、あぶみが短くても、長くても、自分の体重が下に抜けていく感覚は、最終的には、“あぶみを踏んでいる”感覚になるのではと思うので、もしかしたら、競馬と同じ感覚ではないかと思っています。

【質問者】若い馬で、頭頸の伸展時に前のめりになってしまいがちです。頭頸の伸展というのは、頭頸が伸展すれば調教が進んだ形と思われがちなのですが、正しく頭頸が伸展しているのと、バランスを前に崩すのでは違うと思うのですが、いかがでしょうか？

【北原】頭頸を前下方へ伸展するのと、バランスを前に崩すのでは、実は紙一重の状態ですが大きく違います。頭が低くなって歩様のテンポが早くなっていく形が頭頸の伸展ではないと思ってください。頭頸を伸展させるときは、ゆっくりとした運動で行います。頭頸だけが低くなって、バランスを前に崩したままトレーニングをしてしまうケースもありますので、頭が下がっていて頭頸の伸展っぽくなくなるからこれでいいと考えるのは危険だと思います。

頭頸の伸展については、ただ頭頸が下に伸びていく事がいいのか、ハミを受けながら頭頸の伸展をさせることなのか、これらの違いの判断が非常に難しいです。馬の重心とバランスは騎乗者自身の真下にあり、その中で、頭頸が伸展している状態が“真の頭頸の伸展”であって、しかし、重心とバランスはその場で計測できなくて目に見えないものなのです。明らかに前に重心がずれていて、頭頸が低くなり動きの回転数だけが上がっている、従って、“真の頭頸の伸展”ではないことを見極めないといけな

騎乗者本人は、馬の頭が低くなっているからこれが頭頸の伸展だ、馬はリラックスしているんだ、と
思ってしまうかもしれません。ある意味、その状況に馬の状態をもっていくことは大事かもしれませんが、その次のステップとして、監督者が客観的にみてあげて、もし若いスタッフや、指導される立場にある人に対し、それは馬のバランスが前に崩れているだけだ、など、馬の重心が前に崩れていることを判断し、指摘してあげるべきであると考えます。力強く、ゆっくり馬を動かした方が、重心が後ろに移りやすいので、そういう意味ではもっとゆっくりコントロールさせたところで、頭を低く出来るかどうかということを試してみるようにアドバイスをして欲しいです。その部分は誰かが客観的に言ってあげるといことが、特に若くて経験の浅いスタッフの場合には必要になってくると思います。そこは騎乗者だけに任せてしまうのではなく、監督者が見えて、「それはいい、重心もずれていないし、バランスも崩れていない、リラックスしている体勢だ」といべきですし、そうではないケースの場合には、「これは違う、ただ速くなっているだけ、重心も前にのめっている」と指摘し、騎乗者に意識させるということが必要だと考えます。

馬と人のバランスが、自分で判る人と、そうでない人がいると思いますが、外見的な形だけではなく、感じるものを養っていかなければならないと思うので、その部分は、ただ動きが速くなって前にバランスがのめって頭が低くなっているだけなのか、バランスと重心が騎乗者の真下にあって、その中で頭頸だけがきちんと低くなってコンタクトにつながっているのか、ということを見極めてあげるのが監督者や先輩スタッフの役割であると思います。

頭が上がる ABOVE タイプの馬は、低く保っていますが、頭が低く、もともとバランスを前に崩しやすい BELOW タイプの馬であれば、頭頸の伸展はあまりしない方がよいです。頭頸の伸展については、10頭の馬がいたら、全ての馬にそれを行うという方向性・考え方がよいとは思いません。従って、見かけの馬の体勢より、一番はバランスを騎乗者が感じられるようにする、馬のバランスが崩れていないかどうか感じられるような重心の基準を持つというのが重要になります。むしろ、外見的な形だけの頭頸の伸展よりも、バランスと重心をキープできているかを判断できる感覚を養うことが大事であると考えます。

牧場就業者参入促進事業

「競走馬の牧場で働こうフェア BOKUJOB2017」

平成22年から「地方競馬全国協会からの補助金事業」として平成29年までの期間実施しております「牧場就業者参入促進事業」の中で、表題の「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB フェア2017」は、牧場版の合同企業説明会、および軽種馬産業を広く知っていただく機会として位置づけています。

このフェアを中心に3月には、関東・関西の育成牧場において「日帰り見学会」を、8月の夏休み期間中には、北海道において5泊6日の「夏休み牧場で働こう体験会」をそれぞれ開催しました。

これは、牧場に就職をしようと考えている若者や保護者の方々に対して、実際に生産育成の現状を知っていただくことが狙いです。参加者が「牧場で働くことの楽しさ、達成感、また厳しさ」などを、メールやSNSなどを用いて、友達などに口コミで広げてもらい効果も期待できると考えています。

本年度は昨年に引き続き、6月の安田記念開催週にJRA東京競馬場イーストホールにおいて「BOKUJOB2017メインフェア」を、また宝塚記念開催週にJRA阪神競馬場において「BOKUJOB2017関西フェア」を開催しました。

なお、3月の「日帰り見学会」では、関東・関西の育成牧場の皆様に、また、8月の「夏休み牧場で働こう体験会」では北海道の牧場の皆様に、多大なるご協力をいただきました。本誌面を借りて御礼申し上げます。

「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB2017 メインフェア」

1. 概況

◎「BOKUJOB メインフェア（東京競馬場）」

- (1) 日時 6月3・4日(土・日) 10:00~15:00
- (2) 場所 東京競馬場 イーストホール他
- (3) 協力 競走馬のふるさと案内所・静内農業高校・日本軽種馬青年部連絡協議会
- (4) 来場者 195名
(社会人・大学生69名、高校生以下34名、保護者他92名)
- (5) 内容
 - ① 生産育成牧場との面談コーナー
 - ② JBBA・BTC・装蹄教育センター研修施設説明

コーナー

- ③ 静内農業高校による保護者等への進路相談・説明コーナー
- ④ 軽種馬青年部による相談・説明
- ⑤ 競走馬のふるさと案内所の紹介

メインフェア来場者の推移

	社会人 大学生	その他	高校生	保護者	合計	
2010年	450		150		600	
2011年	272		178		450	
2012年	210		199		409	
2013年	208		243		451	
2014年	169		106		275	パークウ インズ 7月開催
2015年	50	200	36	34	320	開催日 10月開催
2016年	73	73	50	58	254	開催日 6月開催
2017年	69	49	34	43	195	〃

2. 広報

- (1) ポスター・チラシ送付 全国約730箇所（ポスター1,350枚、チラシ40,000枚）
農業高校、馬術部のある学校、首都圏・関西・東海地区の高校の進路指導教諭 他
- (2) JRA ホームページ・競馬週刊誌 Gallop・馬レター・リーダーシップ
- (3) グリーンチャンネル・ITV・BS11におけるCMビデオ放映
- (4) Facebook、Twitterによる情報発信、各方面へのフォローの依頼

3. 事務局所感

昨年開設したSNSを利用し、活発に若年層をターゲットにイベント告知を展開した。

また、グリーンチャンネル・競馬場内のターフビジョン・BSイレブンの競馬中継や雑誌広告等、従来型の告知も幅広く行い、対象となる参加者を少しでも多く集めるための施策をJRA等関連機関と連携し実施した。

なお、6月3日に企画した、高校生を対象とした東京駅からのバスツアー参加者は、近年増加傾向にある土曜授業の影響を受け、少数の参加にとどまった。

会場については、昨年と同様東京競馬場のスタンド1階イーストホールに会場を設営し、競馬場来場者にもイベントの開催をアピールした。

対象参加者は、昨年を若干下回る結果となったが、若年層人口が減少傾向にあり、有効求人倍率が上昇気味な昨今の日本において、どの業界も人員不足が深刻であるなか、参加者の多くが、出展牧場からの説明に真剣に耳を傾け、熱心に質問を繰り返しており、各テーブルにおける滞在時間が長くなる傾向があり、参加者の本気度は増している印象を受けた。

開催時期や場所は参加者からも好評をえており、同一時期や場所で継続することにより、一層BOKUJOBの認知度を高めることとしたい。

なお、イベント内におけるコンテンツについては、より一層牧場への就職に前向きな動機づけもたらず場となるよう、関連する牧場や機関と連携し、効果的なコンテンツとなるよう工夫を施していきたい。

【出展牧場】

愛知ステーブル、イクタトレーニングファーム、宇治田原優駿ステーブル、栄進牧場、STウインファーム、追分ファーム、岡田スタッド、小国ステーブル、グランデファーム、グリーンウッドパーク、下河辺牧場、社台コーポレーション、社台ファーム、白井牧場、ダーレー・ジャパン・ファーム、千代田牧場、富田牧場、ノーザンファーム、ノースヒルズ、坂東牧場、ビクトリーホースランチ、ビッグレッドファーム、ヒモリファームジール、フジワラファーム、松風馬事センター、吉澤ステーブル 合計26牧場

「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB2017 関西フェア」

1. 概況

◎「BOKUJOB 関西フェア（阪神競馬場）」

- (1) 日時 6月24・25日(土・日) 10:00~15:00
- (2) 場所 阪神競馬場 アメニティホール
- (3) 協力 日本軽種馬青年部連絡協議会
- (4) 来場者 194名
(社会人・大学生40名、高校生以下38名、保護者他116名)
- (5) 内容
 - ① 生産・育成牧場との面談コーナー
 - ② JBBA・BTC 研修施設説明コーナー

③ 軽種馬青年部による相談・説明

関西フェア受付来場者の推移

	社会人 大学生	見学者	高校生	保護者	合計	ホール内 入場者
2012年	151 (含保護者)		28	←	179	1,486
2013年	28	16	20	23	87	282
2014年	104		10		114	382
2015年	37	118	32	45	232	1,019
2016年	40	57	29	48	174	
2017年	40	73	38	43	194	

2. 広報

- (1) ポスター・チラシ送付 全国約730箇所（ポスター1,350枚、チラシ40,000枚）
農業高校、馬術部のある学校、首都圏・関西・東海地区の高校の進路指導教諭 他
- (2) JRA ホームページ・競馬週刊誌 Gallop・馬レター・リーダーシップ
- (3) グリーンチャンネル・ITV における CM ビデオ放映
- (4) Facebook、Twitter による情報発信、各方面へのフォローの依頼

3. 事務局所感

メインフェアに引き続き SNS や各種媒体を活用して、若年層をメインターゲットにイベント告知を展開した。

なお、参加者増加のテコ入れ策として、JRA 公式ホームページのトップページで関西フェアの開催を告知できた。

会場については、昨年同様阪神競馬場のアメニティホールに会場を設営し、競馬場来場者にもイベントの開催をアピールした。

対象参加者はメインターゲットである若年層（高校生・大学生・社会人）を中心に前年を上回る結果となった。

合計来場者数も昨年同時期のイベントに比べて増加しており、先にふれた JRA トップページでの告知が大きく貢献していると考えられる。

昨年と比較し、スペースが改修工事により狭隘となったため、手狭な配置となったが、「全ての牧場から説明を聞きたい。」と意気込む参加者も見られ、また、出展牧場からも「手応えが感じられる二日間であった。」との声も聞くことができ小規模ながら中身の濃いイベントとなった。

今後とも、関西地区における主力イベントとして、この時期に固定して、屋内であるこの会場において継続的な実施を考えていきたい。

【出展牧場】

イクタトレーニングファーム、宇治田原優駿ステーション、栄進牧場、グリーンウッドパーク、信楽牧場、大山ヒルズ、辰美牧場、ノーザンファーム、吉澤ステーション WEST 合計9牧場

メインフェア（東京競馬場・イーストホール）



関西フェア（阪神競馬場・アメニティホール）



最後にこの場をお借りしまして、出展協力いただきました牧場関係者の皆様、全国軽種馬青年部連絡協議会様、競走馬のふるさと案内所様、静内農業高等学校様、施設利用等に配慮いただきましたJRA 東京競馬場並びに阪神競馬場の皆様方に対し、御礼申し上げます。

～お知らせ～

競走馬生産・育成牧場応援サイト「BOKUJOB」に求人牧場の告知広告を掲載していませんか。

まずは、Webサイト「BOKUJOB」を検索いただき、掲載されている内容をご覧ください。

求人牧場の紹介記事の掲載費用は無料ですので、ご希望の方はWebサイトから直接、若しくは、記入フォーマットを印刷しFAXにて協会までご連絡ください。

東京事務局 電話 03-6809-1821
FAX 03-6809-1822

平成 28 年度「育成等に関する懇談会」の開催

JRA との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。平成28年度の懇談会は9月30日午前10時 JRA 本部 9 階第 3 会議室において、JRA から木村一人馬事担当理事、山野辺啓馬事部長、小林哲也生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長以下 7 理事（欠席理事 2）ほか担当職員が出席して開催されました。

JRA からセリ市場の動向についての報告等がなされた後、当協会から「育成等を取り巻く状況について」を披露し、それらに対する JRA の見解等が示され、それぞれに意見交換がなされました。

「育成等を取り巻く状況について」

ダービー終了直後の週から開始されるようになった新馬戦は、どの競馬場でも多頭数で施行されています。毎週の出馬表のほとんどの競走がフルゲートに近い状態で施行され、トレセンの厩舎は常に出走態勢の競走馬の在厩を求められています。この出走馬の充実という重要な現実が「生産地を中心とした地域での競走馬になるための早期からの育成」や「トレセンとの交流による馬体維持のための調整や育成」等によって支えられていることは、競馬関係者が強く感じているところであります。

現在トレセンに新入厩する若馬は、騎乗馴致の基礎から競馬につながる後期育成の終盤までを完了しています。短期間で再入厩する出走経験馬は、トレセン内で調教していた時と同じ臨戦態勢を維持した状態で帰厩します。「育成」という分野に求められる役割が高度で繊細になってきていることは事実であり、今やこの「育成」ステージ無しには競馬が成り立ちません。しかし、その評価は他の競走馬の分野に比べて届きにくい環境になっているのではないのでしょうか。

競走そのものに直結する「育成」という業界を安定して成熟させることが、現在のような中央競馬を維持していくことにつながると考えられます。そのためにもこの育成業界への各方面からの十分な配慮がより一層必要になってまいります。出走馬の充実に貢献している成果と強い馬づくりに必要な役割を担っていることが評価され、育成業界が安定的に活動できるよう JRA として取り組ん

でいただきたいと思います。

1. 育成技術表彰事業における褒賞金の水準維持について

育成技術表彰事業は、競走馬の育成技術の向上に努めた育成者に対して褒賞金をもって表彰するもので、新馬戦に向けた入厩前の若馬育成や次走に向けて臨戦態勢での維持調整といった昨今の育成牧場に求められる業務の証として、会員からも強い関心と意欲をもって注目されているものであります。当協会会員育成場の育成馬の表彰実績はたいへん高くなっています。このことは育成牧場を正規に経由することが新馬や重賞競走の勝利に結びつくことを表しており、本事業の果たしている役割は非常に大きいと考えられます。

一方、表彰に伴う褒賞の額の実績は、予算額を該当する勝ち馬頭数により除した金額まで単価を切り下げて交付していることから、平成27年度は58,600円となっており（平成26年度59,800円、平成25年度71,200円）、協会の育成技術表彰規程に定める「育成技術表彰として授与する額は、原則100,000円とする」とは大きく乖離してきています。

本事業の目的を果たし、還元と循環によって育成業界を安定して成熟させていくためにも、褒賞水準を維持することが重要であると考えられます。そうした還元が就労環境を整え後継者の養成や育成技術者の確保などにつながると考えられます。根本的な制度の安定やさらなる支援の増強についてご検討をお願いします。

2. 育成技術者に関する表彰について

JRA のご協力により競馬場における 2 歳ステークス競走の表彰式での会員表彰が、現在重賞 6 競走で実現しており、会員の大きな励みとなっています。引き続き表彰機会の提供をお願いするとともに、対象競走の拡大についてもご配慮をお願いします。

3. 育成調教技術者の確保・養成について

育成調教に係る人材の確保・養成は競馬サークル全体の懸案事項となっています。これについては当協会を中心に JRA を含めた軽種馬関係 5 団体が連携し「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業 (BOKUJOB)」を実施しており、競馬場で実施するイベントをはじめ、広報 & 相談コーナーの拡大や体験

会の実施など多彩に展開しているところです。

近年、「BOKUJOB」の知名度は少しずつ浸透しており、牧場における就労につながったという実例など、本事業は着実に成果をあげています。しかし最近では景気動向による他種業界の雇用環境の改善などの影響を受けて、軽種馬産業界は就労者の獲得に苦慮しています。

また育成牧場という性質上、騎乗技術者の養成は必要不可欠です。しかしながらなかなか有効な手立てが見つからないのも事実です。生産育成の業界としても労働環境の改善等に取り組むことで、騎乗技術者の就労や養成につながるものと認識していますが、劇的な変革は困難な状況です。

今後とも就労者の獲得や騎乗技術者の養成に関連して、JRAの多方面からのご支援をお願いします。

4. 育成牧場の基盤強化対策について

近年、トレセンと育成牧場の連携が緊密になり、育成牧場にはよりレベルの高い技術が求められるようになってきています。これに伴い、育成牧場における施設・機材等の整備は経営上重要な課題となっています。協会ではそれらに対応する一助として関係団体のご支援の下、利子補給事業・リース事業・競馬関連機材等有効活用事業などを行っているところです。

特に「競馬関連機材等有効活用事業」については、JRAに様々なご協力をいただいております。この事業は牧場経営上の即効性があることから、会員の関心と要望も強く抽選倍率も高くなっています。機材有効利用については地方競馬などから同様の依頼も多いと思われませんが、より多くの機材が育成牧場で有効に活用できますよう、関係団体を含め、特段のご配慮をお願いします。

行事2

定時総会開催

平成29年度定時総会は、平成29年2月24日に日本中央競馬会六本木事務所9階第1会議室において開催されました。

栗田晴夫会長からの開会あいさつに続いて、農林水産省競馬監督課清水豪競馬監督官、日本中央競馬会木村一人馬事担当理事から来賓祝辞をいただきました。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議案の審議に入り、原案の内容にて承認されました。

JRAの見解と懇談内容

1. 育成技術表彰事業における褒賞金の水準維持について

JRAとしても、本事業の重要性は十分に認識しており、褒賞金の水準維持については可能な限り支援していきたいと思っております。一方、助成金については競馬を取り巻く環境や業界の置かれた状況を見極めながら周囲の理解を得ていく必要があることもご理解いただきたい。

2. 育成技術者に関する表彰について

現状については引き続き実施したいと思っております。さらなる対象競走の拡大については、JRA全体としてメインレースの表彰式短縮を図っているところであり困難であると言わざるを得ません。

3. 育成調教技術者の確保・養成について

人材確保は競馬サークル全体の取り組むべき課題であると認識しております。BOKUJOB等の活動は、育成協会が主体性をもって取り組むものと考えていますが、JRAとしても今後とも協力・支援を続けていきたいと考えます。

4. 育成牧場の基盤強化対策について

施設部門の担当者とも引き続き連携し、ご要望にお応えしていきたいと思っております。

この懇談会は比較的フリーな意見交換ができることから、これらの話題の他にも「セリにおけるレポジットリー開示と一般購買者の注目度」「乗馬少年団の重要性」「セリと育成業界の関わり方」等について、様々な意見交換がなされました。

第1号議案「平成28年度事業報告及び平成28年度財務諸表について」

第2号議案「平成29年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「理事及び監事の選任について」

育成技術講習会

平成28年度の育成技術講習会は、本年度も JRA、BTC、当協会の3団体共催として実施し、下記のとおり開催いたしました。各講習会とも会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数の参加を得て、好評を博しました。

○北海道地区

10月26日(水) 18:00~20:00

新ひだか町公民館

演 題:『今さら聞けない調教法』『馬術と競馬の融合・競馬術についてー競走馬に必要なハミ受けとはー調教の進め方の提案』

講 師: JRA 馬事公苑 北原 広之 氏

参加者数: 218名



○関西地区

11月16日(水) 17:00~19:00

JRA 栗東トレーニングセンター 厚生会館別館

演 題:『馬術と競馬の融合・競馬術についてー競走馬に必要なハミ受けとはー調教の進め方の提案』

講 師: JRA 馬事公苑 北原 広之 氏

参加者数: 275名



○東北地区

9月14日(水) 13:30~15:00

八戸家畜市場

演 題:『生産地における軽種馬の栄養管理』

講 師: JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏

参加者数: 34名



○九州地区

9月27日(火) 13:30~15:30

(公社) 日本軽種馬協会 九州種馬場

演 題:『生産地における軽種馬の栄養管理』

講 師: JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏

参加者数: 36名



※いずれの講習会も、参加者数に演者及び主催者スタッフを含みます。

○関東地区

11月9日(水) 17:00~19:00

JRA 美浦トレーニングセンター 厚生会館本館

演 題:『馬術と競馬の融合・競馬術についてー競走馬に必要なハミ受けとはー調教の進め方の提案』

講 師: JRA 馬事公苑 北原 広之 氏

参加者数: 280名



※育成協会 HP ⇒
エクウスオンラインにおいて
動画配信しています

平成29年度の育成技術講習会は、引き続き JRA、BTC、当協会の3団体共催として、下記のとおり開催いたします。会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数のご参加をお待ちしております。なお、「いくせい55号」発行時に終了している講習会及び未定である講習会については、あしからずご了承願います。

○関東地区

6月1日(木) 13:00~14:00

JRA 美浦トレーニングセンター 乗馬苑

演題：「馬術講習会—騎座の作り方と効用、半減却を取り入れたトレーニング、馬の問題点の解決方法—」

講師：JRA 馬事公苑 北原 広之 氏

参加者数：220名



※育成協会HPにおいて動画配信しています

○関西地区

6月8日(木) 13:00~14:00

JRA 栗東トレーニングセンター 乗馬苑

演題：「馬術講習会—騎座の作り方と効用、半減却を取り入れたトレーニング、馬の問題点の解決方法—」

講師：JRA 馬事公苑 北原 広之 氏

参加者数：193名



○東北地区

9月12日(火) 13:30~15:00

八戸家畜市場

演題：「米国の生産・育成・セリの現状～日本との違いについて～」

講師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏

○九州地区

9月26日(火) 13:30~15:00

(公社) 日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「米国の生産・育成・セリの現状～日本との違いについて～」

講師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏

○北海道地区

10月18日(水) 18:00~20:00

新ひだか町公民館・コミュニティセンター

演題：「米国流のプレーキング・初期育成法の特徴～日本での応用を考える～」

講師：JRA 日高育成牧場 遠藤 祥郎 氏

育成技術講習会 in 東北
米国の生産・育成・セリの現状
 ～日本との違いについて～
 講師：JRA 日高育成牧場 業務課 診療防疫係長 遠藤 祥郎 氏

平成17年にJRA入会、美浦トセンで競走馬の診療に従事した後、日高育成牧場、宮崎育成牧場での勤務を経て、海外生産育成調教実践研修のため、約2年間米国へ派遣。
 米国ではタービダンファーム、ウィンスターファーム、ステューブナムトセン厩舎などでスタッフの一員として研修し、サラブレッドが生まれてから出走するまでのすべてのステージを経験。

日時：9月12日(火) 13:30~15:00
 場所：八戸家畜市場(青森県三戸郡八戸町)

- 1 「ケンタッキーでの繁殖牝馬・子馬の飼養管理と獣医療」
- 2 「育成牧場でのプレーキングと競馬場での調教」
- 3 「米国のセリの種類と特色」

※講演後、BTC軽種馬育成調教場の紹介もあつきます(BTC小林充氏)。

お問い合わせ先：
 主催 日本中央競馬会 TEL 0146-28-1001
 共催 青森県軽種馬生産農協同組合 TEL 0178-51-8765
 主催 公益財団法人 軽種馬育成調教センター
 共催 日本中央競馬会、公益財団法人 競走馬育成協会
 後援 公益財団法人 日本軽種馬協会、青森県軽種馬生産農協同組合

育成技術講習会 in 九州
米国の生産・育成・セリの現状
 ～日本との違いについて～
 講師：JRA 日高育成牧場 業務課 診療防疫係長 遠藤 祥郎 氏

平成17年にJRA入会、美浦トセンで競走馬の診療に従事した後、日高育成牧場、宮崎育成牧場での勤務を経て、海外生産育成調教実践研修のため、約2年間米国へ派遣。
 米国ではタービダンファーム、ウィンスターファーム、ステューブナムトセン厩舎などでスタッフの一員として研修し、サラブレッドが生まれてから出走するまでのすべてのステージを経験。

日時：9月26日(火) 13:30~15:00
 意見交換会：15:00~
 場所：JBBA九州種馬場(鹿児島県鹿野郡大崎町)

- 1 「ケンタッキーでの繁殖牝馬・子馬の飼養管理と獣医療」
- 2 「育成牧場でのプレーキングと競馬場での調教」
- 3 「米国のセリの種類と特色」
- 4 ★九州地区限定企画「福岡県アフロダでの生産育成」

お問い合わせ先：
 主催 日本中央競馬会 TEL 0146-28-1001
 共催 九州軽種馬協会 TEL 099-478-3015
 主催 公益財団法人 軽種馬育成調教センター
 共催 日本中央競馬会、公益財団法人 競走馬育成協会
 後援 公益財団法人 日本軽種馬協会、九州軽種馬協会

育成技術講習会 in 北海道
米国流のプレーキング・初期育成法の特徴
 ～日本での応用を考える～
 講師：JRA 日高育成牧場 業務課 診療防疫係長 遠藤 祥郎 氏

平成17年にJRA入会、美浦トセンで競走馬の診療に従事した後、日高育成牧場、宮崎育成牧場での勤務を経て、海外生産育成調教実践研修のため、約2年間米国へ派遣。
 米国ではタービダンファーム、ウィンスターファーム、ステューブナムトセン厩舎などでスタッフの一員として研修し、サラブレッドが生まれてから出走するまでのすべてのステージを経験。

日時：10月18日(水) 18:00~20:00
 場所：新ひだか町公民館・コミュニティセンター(日高郡新ひだか町新内古川町1-1-2)

- 1 「不整地で走行フォームを作る」
- 2 「1ハロン全力疾走で無酸素運動」
- 3 「調教のパターン化で前進氣勢を出す」
- 4 「Independent」な馬を作る

お問い合わせ先：
 主催 北海道軽種馬協会 TEL 03-6809-1821
 競走馬育成協会 北海道地域団体(支所) TEL 0146-42-2544
 ホームページ http://www.tltd.or.jp/
 主催 公益財団法人 競走馬育成調教センター
 共催 日本中央競馬会、公益財団法人 軽種馬育成調教センター

育成技術表彰事業

1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われてきました（表1）。

2. 平成28年度の表彰事業について

- (1) 平成28年度の表彰件数は、過去最高であった27年度の280件に次ぐ275件となり、会員の育成技術が高い水準で安定していることが反映された成績でした。内訳としては、新馬競走（2歳、3歳）、3歳以上平地オープン競走で昨年をやや

下回る221件ではありましたが、2歳重賞競走（地方対象競走含む）及び障害重賞競走は27年度と同じ14件、3歳以上重賞競走は27年度より11競走多い40件の表彰件数でした。

- (2) 平成28年度の表彰対象会員は、表3のとおりです。

3. 平成29年度の実施について

- (1) 表彰要件等については昨年から変更はありません（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象は、昨年度と同様、札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯及び京王杯の各2歳ステークスの6競走で行う予定です。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳（4歳）以上重賞 競走の3歳馬・ダート重賞交流競走 （3・4歳限定）	39件	平成20年度		218件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成21年度		225件
平成14年度		163件	平成22年度		230件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和 （育成期間5ヶ月以上）	125件	平成23年度		229件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成24年度		250件
平成17年度		185件	平成25年度		232件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成26年度		272件
平成19年度		213件	平成27年度		280件
			平成28年度		275件

※平成27年度の表彰件数は、JRA 助成金確定後に修正申告のあった1件を含む。

表2. 平成29年度の実施について

種 目	表彰要件（注1、2）	賞 金	備 考
新馬競走	2歳新馬競走	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。
	3歳新馬競走		
2歳重賞競走 （2歳重賞指定交流競走を含む。）	満1歳になる年度の9月1日～12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員		
障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入きゅう後42日（6週間）以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員		
3歳以上の重賞競走	トレセン等入きゅう直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入きゅう後30日以内に優勝した馬を育成した正会員	原則として10万円	ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

表3. 平成28年度 育成技術表彰対象会員一覧

	代表者名	支部名	表 彰 件 数													計
			新馬競走		2歳重賞競走			重賞競走				障害重賞		交流重賞競走	オープン特別競走	
			3歳	2歳	GI	GII	GIII	GI	GII	GIII	新設	JII	JIII	JPNIII		
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	13	62		3	2		1					1		82
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	4	22	2		1									29
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北							2	2	9	1			3	17
株式会社吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	6	8									1	1		16
株式会社レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西							1	4	7				1	13
有限会社ビッグレッドファーム	岡田美佐子	北海道	1	8			1				1					11
有限会社坂東牧場	坂東 正積	北海道		7												7
有限会社宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西							1	1	1				3	6
株式会社吉澤ステーブルWEST	吉澤 克己	関西							1	2	1				2	6
有限会社下河辺牧場	下河辺俊行	北海道		5												5
追分ファーム	吉田 晴哉	北海道	2	2												4
株式会社西山牧場	西山 茂行	北海道		4												4
株式会社愛知ステーブル	近藤 秀典	北海道	1	1								1				3
株式会社セイクリットファーム	小林 克己	北海道		3												3
有限会社様似木村牧場	木村 薫	北海道		3												3
株式会社ノースヒルズ	古谷 道昌	北海道		2			1									3
有限会社日高軽種馬共同育成公社	小竹 國昭	北海道	1	2												3
有限会社ファンタスタクラブ	古岡 宏仁	北海道		2											1	3
有限会社目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	1	1											1	3
有限会社ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	1	2												3
株式会社グリーンウッドパーク	永山 正喜	関東								2					1	3
有限会社加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	2													2
有限会社グランデファーム	衣斐 浩	北海道		2												2
有限会社高昭牧場	上山 泰憲	北海道	1	1												2
有限会社コスモビューファーム	岡田亜希子	北海道		2												2
株式会社白井牧場	白井 岳	北海道		2												2
有限会社武田ステーブル	武田 茂男	北海道	1	1												2
有限会社千代田牧場	飯田 正剛	北海道	1	1												2
有限会社ピクトリーホースランチ	荻野 豊	北海道		2												2
株式会社森本ステーブル	森本 敏正	北海道		2												2
株式会社アクティブファーム	加藤 祐嗣	北海道	1	1												2
有限会社ミホ分場	藤沢 美咲	関東						1							1	2
有限会社ビッグレッドファーム兼トレーニングセンター	岡田美佐子	関東													2	2
有限会社ジョイナスファーム	古谷 博	関東		2												2
岩見ステーブル	岩見 輝成	北海道		1												1
株式会社小国ステーブル	小国 和紀	北海道		1												1
有限会社荻伏共同育成場	上山 泰憲	北海道		1												1
有限会社グラストレーニングセンター	岡崎 修	北海道	1													1
有限会社ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	1													1
様似町軽種馬共同育成センター利用組合	辻 弘毅	北海道	1													1
有限会社谷岡牧場	谷岡 康成	北海道	1													1
有限会社谷川牧場	谷川 貴英	北海道	1													1
チームブレアデス	星野 純一	北海道		1												1
錦岡牧場	土井 睦秋	北海道		1												1
有限会社日高大洋牧場	小野田 宏	北海道		1												1
株式会社Pyramid Training	マイアージュウイセト	北海道		1												1
有限会社ベーシカル・コーチング・スクール	高橋 司	北海道		1												1
有限会社三石軽種馬共同育成センター	前川 則久	北海道		1												1
有限会社佐藤牧場	佐藤 傳二	東北		1												1
株式会社MS遠野	長尾 研司	東北		1												1
有限会社オークリーフ	吉田 京子	関東								1						1
シンボリ牧場有限会社	和田 孝弘	関東		1												1
吉澤ステーブル EAST	吉澤 克己	関東								1						1
株式会社信楽牧場	中内田克二	関東													1	1
SUNDANCE EE	玉置 徹	九州		1												1
長谷川牧場	長谷川一美	九州		1												1
	56 会員		41	164	2	3	5	6	10	23	1	1	1	2	16	275

平成28年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

平成28年8月28日（日）新潟競馬場
 第36回新潟2歳ステークス（GⅢ）左芝1,600
 優勝馬 ヴゼットジョリー号（牝）
 表彰会員名【1033】社台ファーム
 育成期間 179日間
 プレゼンター；沖崎 誠一郎 理事
 〔競走馬育成協会 関東地域団体（支部）長〕
 ※表彰実施は平成21年～（8年目）



平成28年9月3日（土）札幌競馬場
 第51回農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）
 右芝1,800
 優勝馬 地トラスト号（牡）
 表彰会員名【1073】有限会社ビッグレッドファーム
 育成期間 264日間
 プレゼンター；飯田 正剛 副会長理事
 〔競走馬育成協会 北海道地域団体（支部）長〕
 ※表彰実施は平成20年～（9年目）



平成28年11月5日（土） 東京競馬場
第52回京王杯2歳ステークス（GⅡ）左芝1,400
優勝馬 モンドキャンノ号（牡）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
育成期間 219日間
プレゼンター；栗田 晴夫 会長理事
※表彰実施は平成22年～（7年目）



平成28年11月12日（土） 京都競馬場
第51回デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）右芝1,600
優勝馬 ジュヌエコール号（牝）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
育成期間 261日間
プレゼンター；中内田 克二 理事
〔競走馬育成協会 関西地域団体（支部）長〕
※表彰実施は平成22年～（7年目）



平成 29 年度 2 歳重賞競走の施行競馬場における表彰

平成29年7月23日（日） 函館競馬場
 第49回函館2歳ステークス（GⅢ）右芝1,200
 優勝馬 カシアス号（牡）
 表彰会員名【1096】株式会社吉澤ステーブル
 育成期間 186日間
 プレゼンター；高橋 司 理事
 〔競走馬育成協会 関東地域団体 副（支部）長〕
 ※表彰実施は平成20年～（10年目）



平成29年8月27日（日） 新潟競馬場
 第37回新潟2歳ステークス（GⅢ）左芝1,600
 優勝馬 フロンティア号（牡）
 表彰会員名【1056】ノーザンファーム
 育成期間 239日間
 プレゼンター；沖崎 誠一郎 理事
 〔競走馬育成協会 関東地域団体（支部）長〕
 ※表彰実施は平成21年～（9年目）



平成29年9月2日（土） 札幌競馬場

第52回農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）
右芝1,800

優勝馬 ロックディスタウン号（牝）

表彰会員名【1056】ノーザンファーム

育成期間 250日間

プレゼンター：飯田 正剛 副会長理事

〔競走馬育成協会 北海道地域団体（支部）長〕

※表彰実施は平成20年～（10年目）



平成29年9月3日（日） 小倉競馬場

第37回小倉2歳ステークス（GⅢ）右芝1,200

優勝馬 ⑥アサクサゲンキ（牡）

表彰会員名【1033】社台ファーム

育成期間 157日間

プレゼンター：柏木務 理事

〔競走馬育成協会 九州地域団体（支部）長〕

※表彰実施は平成20年～（10年目）



平成28年度 育成技術表彰事業 [507競走のうち275勝56会員]
表彰会員 一覧表

会員番号	会員名	代表者	地域 団体 (支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オープン	血統番号	優勝馬名	性別	褒賞金単価		TTDA 資金単価	会員別 合計 (円)	
														数	59,100			数
1001	株式会社 愛知ステーブル	近藤 秀典	北海道	2016年8月27日	2回	小倉	9	5R	2歳新馬		2014101569	アオアラン	牝2					
				2016年1月24日	1回	京都	8	6R	3歳新馬		2013103292	ダイアナヘイロー	牝3					
				2016年7月30日	2回	小倉	1	8R	第18回 小倉サマーチャンピオン	J-G III	2010101930	マキオポラー	牝6	3	177,300			177,300
1003	道分ファーム	吉田 晴哉	北海道	2016年8月21日	2回	小倉	8	5R	2歳新馬		2014105258	ヘルシアンナ小	牝2					
				2016年11月19日	5回	東京	5	5R	2歳新馬		2014105246	カーペラージュ	牝2					
				2016年1月9日	1回	中山	2	3R	3歳新馬		2013105260	ソロダンサー	牝3					
1011	岩見ステーブル	岩見 輝成	北海道	2016年2月27日	2回	中山	1	5R	3歳新馬		2013105243	シークザフューチャー	牝3	4	236,400		236,400	
				2016年7月16日	2回	福島	5	5R	2歳新馬		2014100332	ワールドソアラ	牝2	1	59,100		59,100	
				2016年10月9日	4回	東京	2	4R	2歳新馬		2014100157	モンサンレガム	牝2	1	59,100		59,100	
1013	株式会社 荻伏共同育成場	上山 泰憲	北海道	2016年9月18日	4回	阪神	4	5R	2歳新馬		2014103795	ワンダーブチユック	牝2	1	59,100		59,100	
				2016年1月17日	1回	中山	6	4R	3歳新馬		2013104896	リングスター	牝3					
				2016年2月28日	2回	中山	2	3R	3歳新馬		2013104708	ヒカトリップメモリ	牝3	2	118,200		118,200	
1019	株式会社 クラストレーニングセンター	岡崎 修	北海道	2016年2月6日	2回	京都	3	2R	3歳新馬		2013104840	ワンダースベリオル	牝3	1	59,100		59,100	
				2016年7月9日	2回	函館	1	5R	2歳新馬		2014101601	ラーナアズラ	牝2					
				2016年10月22日	4回	京都	6	4R	2歳新馬		2014100900	メイショウテムズ	牝2	2	118,200		118,200	
1023	株式会社 ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	2016年2月7日	2回	京都	4	6R	3歳新馬		2013102302	ロードブレイド	牝3	1	59,100		59,100	
				2016年7月2日	3回	中京	1	5R	2歳新馬		2014103798	メイショウソウキ	牝2					
				2016年1月30日	1回	中京	5	6R	3歳新馬		2013101575	カネシメス	牝3	2	118,200		118,200	
1025	株式会社 高昭牧場	上山 泰憲	北海道	2016年6月12日	3回	東京	4	6R	2歳新馬		2014100214	ウインドリソ	牝2					
				2016年7月16日	2回	福島	5	6R	2歳新馬		2014101677	アイルキャッチュー	牝2	2	118,200		118,200	
				2016年8月6日	2回	小倉	3	5R	2歳新馬		2014102255	ドリムアロー	牝2					
1027	株式会社 セイクリックファーム	小林 克己	北海道	2016年9月10日	4回	阪神	1	6R	2歳新馬		2014100247	ジョウショーホマレ	牝2					
				2016年12月18日	5回	中山	6	5R	2歳新馬		2014101753	サノラブ	牝2	3	177,300		177,300	
				2016年7月9日	2回	福島	3	5R	2歳新馬		2014103404	タケシヨウベスト	牝2					
1028	株式会社 様似木村牧場	木村 薫	北海道	2016年10月10日	4回	東京	3	5R	2歳新馬		2014103389	イノハチア	牝2					
				2016年11月13日	5回	東京	4	6R	2歳新馬		2014103268	ジャッキー	牝2	3	177,300		177,300	
				2016年2月20日	1回	小倉	3	5R	3歳新馬		2013103576	スノーマン	牝3	1	59,100		59,100	
1029	株式会社 様似町産種馬共同育成センター利用組合	辻 弘毅	北海道	2016年6月25日	3回	阪神	7	5R	2歳新馬		2014101919	タイセイブレイク	牝2					
				2016年9月25日	4回	中山	6	5R	2歳新馬		2014101974	キャナルストリート	牝2					
				2016年10月22日	4回	京都	6	5R	2歳新馬		2014101965	ハンポネ	牝2					
1032	株式会社 下河辺牧場	下河辺 俊行	北海道	2016年12月10日	5回	阪神	3	6R	2歳新馬		2014101984	アンタガシヤチヨウ	牝2					
				2016年12月11日	5回	阪神	4	5R	2歳新馬		2014101976	キセキ	牝2	5	295,500		295,500	
				2016年6月18日	1回	函館	1	5R	2歳新馬		2014105693	サベストエハバ	牝2					
1033	社台ファーム	吉田 照哉	北海道	2016年6月26日	3回	阪神	8	5R	2歳新馬		2014105747	アンバーミニ	牝2					
				2016年7月16日	3回	中京	5	5R	2歳新馬		2014105681	アメリカズカップ	牝2					
				2016年7月23日	2回	福島	7	5R	2歳新馬		2014105713	ペイトマルヴェイエ	牝2					
				2016年7月23日	2回	福島	7	6R	2歳新馬		2014105422	ナリメジャー	牝2					

会員番号	会員名	代表者	地域団体(支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オープン	血統番号	優勝馬名	性別	複賞金単価 数	TIDA 資金単価 数	会員別 計 (円)
1033	社台ファーム	吉田 照成	北海道	2016年7月23日	3回	中京	7	5R	2歳新馬		2014105655	ウゼットジョリー	牝2			
				2016年7月31日	1回	札幌	2	5R	2歳新馬		2014105535	ソウルスターリング	牝2			
				2016年7月31日	1回	札幌	2	6R	2歳新馬		2014105630	ビーチマリカ	牝2			
				2016年8月13日	1回	札幌	5	5R	2歳新馬		2014105352	ヴィーナスタアローラ	牝2			
				2016年9月4日	2回	新潟	12	5R	2歳新馬		2014105402	アルジャントウイユ	牝2			
				2016年9月17日	4回	阪神	3	5R	2歳新馬		2014105383	アグネスジュレップ	牝2			
				2016年10月16日	4回	東京	5	4R	2歳新馬		2014105672	エバープリンセス	牝2			
				2016年11月6日	5回	東京	2	5R	2歳新馬		2014105589	ダイウキヤグニー	牝2			
				2016年11月12日	5回	東京	3	5R	2歳新馬		2014105432	ヴォルフトーン	牝2			
				2016年11月12日	5回	東京	3	6R	2歳新馬		2014105514	フォギーナイト	牝2			
				2016年11月20日	5回	東京	6	5R	2歳新馬		2014101644	イエローマジック	牝2			
				2016年11月20日	5回	東京	6	6R	2歳新馬		2014105608	ハナレイムーン	牝2			
				2016年11月26日	5回	京都	7	6R	2歳新馬		2014110010	ラビットラン	牝2			
				2016年12月3日	5回	中山	1	6R	2歳新馬		2014105637	スマートシンペロン	牝2			
				2016年12月3日	5回	阪神	1	5R	2歳新馬		2014105408	ダノンロマン	牝2			
				2016年12月17日	5回	中山	5	6R	2歳新馬		2014105439	ダイワドノヴァン	牝2			
				2016年12月25日	5回	阪神	9	5R	2歳新馬		2014105592	デイズインハイツ	牝2			
				2016年1月9日	1回	京都	2	2R	3歳新馬		2013105481	ドラゴンカップ	牝3			
				2016年1月11日	1回	京都	4	6R	3歳新馬		2013105727	レインボーフラッグ	牝3			
				2016年1月17日	1回	京都	6	6R	3歳新馬		2013105648	ハールコード	牝3			
				2016年2月7日	1回	東京	4	3R	3歳新馬		2013105415	シュナウザー	牝3			
				2016年8月28日	2回	新潟	10	11R	第36回 新潟2歳ステークス	G III	2014105655	ウゼットジョリー	牝2			
				2016年12月11日	5回	阪神	4	11R	第68回 豊林水産賞典重典取神ジュベナイルフイアース	G I	2014105535	ソウルスターリング	牝2			
				2016年12月18日	5回	阪神	6	11R	第68回 朝日杯フューチャリティステークス	G I	2014105493	サトノアレス	牝2	29	1,713,900	1,713,900
1034	株式会社 白井牧場	白井 岳	北海道	2016年8月28日	2回	新潟	10	5R	2歳新馬		2014102033	ダノンハイパワー	牝2			
				2016年10月30日	3回	新潟	6	5R	2歳新馬		2014104970	ヴィークリーズ	牝2	2	118,200	118,200
1042	有限会社 武田ステューブル	武田 茂男	北海道	2016年12月17日	4回	中京	5	5R	2歳新馬		2014103379	スリーミスヨハネス	牝2			
				2016年1月24日	1回	京都	8	2R	3歳新馬		2013103739	モルゲンロート	牝3	2	118,200	118,200
1044	有限会社 谷圃牧場	谷圃 康成	北海道	2016年1月31日	1回	東京	2	3R	3歳新馬		2013104415	サクラエンハイア	牝3	1	59,100	59,100
1045	有限会社 谷川牧場	谷川 貴英	北海道	2016年2月13日	2回	京都	5	4R	3歳新馬		2013103425	メイショウバンダイ	牝3	1	59,100	59,100
1048	有限会社 千代田牧場	飯田 正剛	北海道	2016年8月13日	2回	小倉	5	5R	2歳新馬		2014104731	フタツランナー	牝2			
				2016年1月23日	1回	中山	7	6R	3歳新馬		2013104491	ミエノドノマー	牝3	2	118,200	118,200
1049	チームブレアデス	星野 純一	北海道	2016年7月30日	2回	小倉	1	5R	2歳新馬		2014101668	ナムラアイドル	牝2	1	59,100	59,100
1053	株式会社 西山牧場	西山 茂行	北海道	2016年6月26日	3回	東京	8	5R	2歳新馬		2014104659	ニシノアップルハイ	牝2			
				2016年7月10日	2回	福島	4	6R	2歳新馬		2014100462	ニシノオウゴン	牝2			
				2016年8月13日	2回	新潟	5	5R	2歳新馬		2014102696	ニシノアモーレ	牝2			
				2016年8月21日	2回	小倉	8	6R	2歳新馬		2014100827	ラソ	牝2	4	236,400	236,400
1056	ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	2016年6月4日	3回	阪神	1	5R	2歳新馬		2014105800	レッドラシマ	牝2			
				2016年6月5日	3回	阪神	2	5R	2歳新馬		2014105958	アンジュシヤルマン	牝2			

会員番号	会員名	代表者	地域団体(支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オーナー	血統番号	優勝馬名	性別	複賞金単価 数	TIDA 資金単価 数	会員別 計 (円)
1056	ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	2016年6月19日	3回	東京	6	6R	2歳新馬		2014105785	アエロリット	牝2			
				2016年6月19日	1回	函館	2	5R	2歳新馬		2014106235	モンドキャンノ	牝2			
				2016年7月3日	3回	中京	2	5R	2歳新馬		2014106185	モーヴサファイア	牝2			
				2016年7月3日	3回	中京	2	6R	2歳新馬		2014106144	ティンバワンサ	牝2			
				2016年7月9日	3回	中京	3	5R	2歳新馬		2014106010	ダンビュライト	牝2			
				2016年7月10日	3回	中京	4	5R	2歳新馬		2014106231	ジュースエコー	牝2			
				2016年7月17日	3回	中京	6	5R	2歳新馬		2014106132	トリコロールブルー	牝2			
				2016年7月17日	3回	中京	6	6R	2歳新馬		2014105960	オールポツポツ	牝2			
				2016年7月17日	2回	函館	4	5R	2歳新馬		2014102897	トリオンフ	牝2			
				2016年7月24日	2回	福島	8	5R	2歳新馬		2014106211	キングズラッシュ	牝2			
				2016年7月24日	2回	函館	6	5R	2歳新馬		2014106005	アドマイヤウイナー	牝2			
				2016年7月30日	2回	新潟	1	5R	2歳新馬		2014102889	カウンクストレート	牝2			
				2016年8月7日	2回	新潟	4	5R	2歳新馬		2014106166	ランガデア	牝2			
				2016年8月7日	2回	小倉	4	5R	2歳新馬		2014106006	ミアアイトーン	牝2			
				2016年8月7日	1回	札幌	4	5R	2歳新馬		2014106197	インヴィクタ	牝2			
				2016年8月14日	2回	新潟	6	6R	2歳新馬		2014103121	エビカリス	牝2			
				2016年8月14日	2回	新潟	6	5R	2歳新馬		2014105801	メイソングジュニア	牝2			
				2016年8月14日	2回	小倉	6	5R	2歳新馬		2014105366	コリエドール	牝2			
				2016年8月14日	1回	札幌	6	5R	2歳新馬		2014105982	レットアシエル	牝2			
				2016年8月20日	2回	札幌	1	5R	2歳新馬		2014105907	ヴァナヘイム	牝2			
				2016年8月28日	2回	小倉	10	5R	2歳新馬		2014106136	コーラルプリンセス	牝2			
				2016年9月3日	2回	新潟	11	5R	2歳新馬		2014105780	サルタート	牝2			
				2016年9月4日	2回	新潟	12	6R	2歳新馬		2014105780	サルタート	牝2			
				2016年9月18日	4回	中山	4	5R	2歳新馬		2014105810	ヒストリア	牝2			
				2016年9月24日	4回	阪神	5	5R	2歳新馬		2014106174	ミスエルテ	牝2			
				2016年9月25日	4回	阪神	6	5R	2歳新馬		2014106212	ムーヴザワールド	牝2			
				2016年10月8日	4回	東京	1	5R	2歳新馬		2014105784	オンリートゥモロー	牝2			
				2016年10月8日	4回	京都	1	5R	2歳新馬		2014105983	タイセイスターリー	牝2			
				2016年10月9日	4回	東京	2	5R	2歳新馬		2014106201	レイデオロ	牝2			
				2016年10月10日	4回	京都	3	3R	2歳新馬		2014106168	リナーテ	牝2			
				2016年10月15日	4回	京都	4	4R	2歳新馬		2014106070	ジュネシス	牝2			
				2016年10月16日	4回	京都	5	5R	2歳新馬		2014106110	コロナシオン	牝2			
				2016年10月16日	3回	新潟	2	5R	2歳新馬		2014105942	ネオフレグランス	牝2			
				2016年10月22日	4回	東京	6	4R	2歳新馬		2014105922	レットルチア	牝2			
				2016年10月23日	3回	新潟	4	5R	2歳新馬		2014105854	リカピトス	牝2			
				2016年10月29日	4回	東京	8	5R	2歳新馬		2014106097	ハルティウーラ	牝2			
				2016年10月29日	4回	京都	8	5R	2歳新馬		2014106046	アルアイン	牝2			
				2016年10月30日	4回	東京	9	4R	2歳新馬		2014102900	ビルストンジャー	牝2			
				2016年10月30日	4回	東京	9	5R	2歳新馬		2014106026	ハルアス	牝2			
				2016年10月30日	4回	京都	9	4R	2歳新馬		2014105850	エルデュクラージュ	牝2			
				2016年11月5日	5回	京都	1	7R	2歳新馬		2014105897	クリアサトフラック	牝2			

会員番号	会員名	代表者	地域団体(支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オーブン	血統番号	優勝馬名	性別	複賞金単価 数	TIDA 資金単価 数	会員別 計 (円)
1056	ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	2016年11月6日	5回	京都	2	5R	2歳新馬		2014105783	ダノンテイスタンス	牝2			
				2016年11月6日	5回	京都	2	6R	2歳新馬		2014105969	ゼアブラヴ	牝2			
				2016年11月12日	5回	京都	3	5R	2歳新馬		2014105837	レイズアベール	牝2			
				2016年11月13日	5回	東京	4	5R	2歳新馬		2014105953	ハーツプライト	牝2			
				2016年11月13日	5回	京都	4	5R	2歳新馬		2014105957	グローブシスター	牝2			
				2016年11月20日	5回	京都	6	5R	2歳新馬		2014106176	ホホカテベトル	牝2			
				2016年11月26日	5回	東京	7	5R	2歳新馬		2014110001	ハリソグラ	牝2			
				2016年11月26日	5回	京都	7	5R	2歳新馬		2014105951	ミロッサ	牝2			
				2016年11月27日	5回	東京	8	4R	2歳新馬		2014110013	ナイルストリー	牝2			
				2016年12月3日	5回	中山	1	5R	2歳新馬		2014101307	モザイク	牝2			
				2016年12月3日	5回	阪神	1	6R	2歳新馬		2014106186	ヘルランヴェール	牝2			
				2016年12月4日	5回	中山	2	6R	2歳新馬		2014106073	ビートマッチ	牝2			
				2016年12月4日	5回	阪神	2	5R	2歳新馬		2014105928	サロニカ	牝2			
				2016年12月10日	5回	中山	3	5R	2歳新馬		2014105853	アーザムブルー	牝2			
				2016年12月10日	5回	中山	3	6R	2歳新馬		2014105949	セダブリランテス	牝2			
				2016年12月10日	5回	阪神	3	5R	2歳新馬		2014106061	ラブリンディア	牝2			
				2016年12月11日	4回	中京	4	5R	2歳新馬		2014105836	ダノンキングダム	牝2			
				2016年12月17日	5回	中山	5	5R	2歳新馬		2014105804	カリンバ	牝2			
				2016年12月23日	5回	中山	7	4R	2歳新馬		2014106119	ドラゴンホマレ	牝2			
				2016年12月25日	5回	中山	9	5R	2歳新馬		2014105996	デアレガロー	牝2			
				2016年1月5日	1回	中山	1	6R	3歳新馬		2013106182	レーヴァティン	牝3			
				2016年1月10日	1回	京都	3	6R	3歳新馬		2013105783	ロッチェマイヤ	牝3			
				2016年1月11日	1回	中山	4	3R	3歳新馬		2013105869	ハヴロ	牝3			
				2016年1月17日	1回	中山	6	6R	3歳新馬		2013102016	ハルエダンサー	牝3			
				2016年1月23日	1回	中山	7	4R	3歳新馬		2013105835	シフォンカール	牝3			
				2016年2月7日	1回	東京	4	5R	3歳新馬		2013105870	ラヴィエベール	牝3			
				2016年2月14日	2回	京都	6	6R	3歳新馬		2013106051	ビップライプリー	牝3			
				2016年2月20日	1回	東京	7	3R	3歳新馬		2013106004	ダノンハウンド	牝3			
				2016年2月21日	1回	東京	8	5R	3歳新馬		2013106013	ビツシュ	牝3			
				2016年2月28日	1回	阪神	2	5R	3歳新馬		2013105765	プレジゲンクテレサ	牝3			
				2016年3月13日	1回	阪神	6	3R	3歳新馬		2013105969	アドマイヤリアル	牝3			
				2016年3月19日	1回	阪神	7	4R	3歳新馬		2013105942	ソリテール	牝3			
				2016年3月20日	2回	中山	7	4R	3歳新馬		2013105795	フォースリッチ	牝3			
				2016年10月29日	4回	東京	8	11R	アルミスステークス	G III	2014106220	リスグラシュー	牝2			
				2016年11月1日	15回	門別	3	10R	北海道2歳優駿(指定交流)	Jpn III	2014103121	エヒカリス	牝2			
				2016年11月5日	5回	東京	1	11R	京王杯2歳ステークス	G II	2014106235	モンドキャンノ	牝2			
				2016年11月5日	5回	京都	1	11R	第21回 KBS 京都賞ファンタジーステークス	G III	2014106174	ミスエルテ	牝2			
				2016年11月12日	5回	京都	3	11R	第51回 アイリ杯2歳ステークス	G II	2014106231	ジュースエコー	牝2			
				2016年12月25日	5回	中山	8	9R	第33回 ホープフルステークス	G II	2014106201	レイデオロ	牝2			
				2016年8月21日	2回	札幌	2	11R	第52回 札幌記念	G II	2011103978	ネオリアリズム	牝5	82	4,846,200	4,846,200

会員番号	会員名	代表者	地域団体(支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オープン	血統番号	優勝馬名	性別	複賞金単価 数	TIDA 資金単価 数	39,000	会員別 計 (円)
1057	株式会社 ノースヒルズ	古谷 道昌	北海道	2016年9月11日	4回	阪神	2	5R	2歳新馬		201410056	メリオラ	牝2				
				2016年10月2日	4回	阪神	8	5R	2歳新馬		2014101228	アットトップ	牝2				
				2016年11月26日	5回	京都	7	11R	第3回 ランオ NIKKEI 杯京都2歳ステークス	G III	2014104449	カテナ	牝2	3	177,300		177,300
1058	錦園牧場	土井 睦秋	北海道	2016年12月17日	5回	阪神	5	6R	2歳新馬		2014100549	ヤマニンベロリダ	牝2	1	59,100		59,100
1065	有限会社 坂東牧場	坂東 正積	北海道	2016年7月2日	2回	福島	1	6R	2歳新馬		2014100309	マコトバクエロ	牝2				
				2016年7月3日	2回	福島	2	5R	2歳新馬		2014101550	アピールバリオ	牝2				
				2016年7月9日	2回	函館	1	6R	2歳新馬		2014101832	サザンボルケーノ	牝2				
				2016年9月17日	4回	阪神	3	6R	2歳新馬		2014101770	ケキリン	牝2				
				2016年10月16日	4回	東京	5	3R	2歳新馬		2014109096	ジャストサマリ	牝2				
				2016年11月12日	5回	京都	3	6R	2歳新馬		2014105073	スベクター	牝2				
1069	有限会社 ビクトリーホースランチ	荻野 豊	北海道	2016年12月23日	5回	函館	7	6R	2歳新馬		2014101833	サウスザサナイバー	牝2	7	413,700		413,700
				2016年11月19日	3回	福島	5	5R	2歳新馬		2014103487	エヴェリーナ	牝2				
				2016年12月4日	5回	中山	2	5R	2歳新馬		2014103911	サーストウイナー	牝2	2	118,200		118,200
1070	有限会社 日高軽種馬共同育成公社	小竹 國昭	北海道	2016年10月16日	4回	京都	5	4R	2歳新馬		2014101790	トウケイライデン	牝2				
				2016年10月29日	4回	東京	8	4R	2歳新馬		2014102135	サンマルライバル	牝2				
				2016年1月16日	1回	中山	5	4R	3歳新馬		2013103394	カナスマーマ	牝3	3	177,300		177,300
1071	有限会社 日高大洋牧場	小野田 宏	北海道	2016年12月24日	5回	阪神	8	5R	2歳新馬		2014102388	インウイズバース	牝2	1	59,100		59,100
1073	有限会社 ビッグレットファーム	岡田 美佐子	北海道	2016年6月4日	3回	東京	1	5R	2歳新馬		2014105018	マイネルバルマン	牝2				
				2016年6月19日	3回	阪神	6	5R	2歳新馬		2014100687	エンリナーチケット	牝2				
				2016年6月25日	3回	東京	7	5R	2歳新馬		2014102617	アンノートル	牝2				
				2016年7月10日	2回	福島	4	5R	2歳新馬		2014104310	マイネルザウバア	牝2				
				2016年7月17日	2回	福島	6	5R	2歳新馬		2014100139	サルヴェレジーナ	牝2				
				2016年7月31日	2回	新潟	2	6R	2歳新馬		2014100728	クイントウーブル	牝2				
				2016年10月1日	4回	中山	7	5R	2歳新馬		2014110035	マイネルアムニス	牝2				
				2016年12月4日	5回	阪神	2	6R	2歳新馬		2014100686	エンゲルヘン	牝2				
				2016年1月31日	1回	東京	2	5R	3歳新馬		2013103515	オアーン	牝3				
				2016年9月3日	2回	札幌	5	11R	農林水産省賞典 札幌2歳ステークス	G III	2014100465	トラスト	牝2				
				2016年7月17日	2回	函館	4	11R	第52回 農林水産省賞典函館記念	G III	2010105964	マイネルミラノ	牝6	11	650,100		650,100
1075	有限会社 ファンタスタクラブ	古岡 宏仁	北海道	2016年7月30日	1回	札幌	1	5R	2歳新馬		2014101898	ミスパンチール	牝2				
				2016年8月21日	2回	新潟	8	5R	2歳新馬		2014102119	トーホウアレス	牝2	2	118,200		
				2016年7月3日	1回	函館	6	11R	巴賞	オープン	2010110014	レッドレイヴン	牝6			1	39,000
1078	株式会社 Pyramid Training	ライオン・ユージン ソフィア・セント	北海道	2016年8月20日	2回	新潟	7	6R	2歳新馬		2014102153	ブライントロック	牝2	1	59,100		59,100
1080	有限会社 ベーシカル・コーチング・スクール	高橋 司	北海道	2016年8月7日	2回	新潟	4	6R	2歳新馬		2014106438	チシャキヤット	牝2	1	59,100		59,100
1088	有限会社 三石軽種馬共同育成センター	前川 則久	北海道	2016年9月11日	4回	中山	2	6R	2歳新馬		2014103463	トミケンカラム	牝2	1	59,100		59,100
1091	株式会社 森本ステイアブル	森本 敏正	北海道	2016年7月16日	2回	函館	3	5R	2歳新馬		2014101144	ポッドジーニー	牝2				
				2016年10月23日	4回	東京	7	4R	2歳新馬		2014101417	ジョーストリクトリ	牝2	2	118,200		118,200
1094	有限会社 目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	2016年9月3日	2回	札幌	5	5R	2歳新馬		2014104851	ヤマカックレース	牝2				
				2016年3月5日	1回	阪神	3	3R	3歳新馬		2013104023	メイショウアタカマ	牝3	2	118,200		
				2016年9月4日	2回	札幌	6	11R	丹頂ステークス	オープン	2012103496	ヤマカックライデン	牝4			1	39,000

会員番号	会員名	代表者	地域団体(支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オープン	血統番号	優勝馬名	性別	褒賞金単価 数	TIDA 資金単価 数	会員別 計 (円)	
1095	有限会社 ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	2016年6月25日	1回	函館	3	5R	2歳新馬		2014102733	ロイヤルメジャー	牝2				
				2016年8月28日	2回	札幌	4	5R	2歳新馬		2014104888	サリハバットマン	牝2				
				2016年2月27日	1回	阪神	1	4R	3歳新馬		2013103528	ダンツペンダント	牝3	3	177,300	177,300	
				2016年6月19日	3回	東京	6	5R	2歳新馬		2014102668	サトノクノス	牝2				
				2016年8月21日	2回	札幌	2	5R	2歳新馬		2014104022	ティーフウォーリア	牝2				
				2016年8月27日	2回	札幌	3	5R	2歳新馬		2014110050	リエノテソーロ	牝2				
				2016年9月24日	4回	阪神	5	6R	2歳新馬		2014102190	コーカス	牝2				
				2016年11月5日	5回	京都	1	6R	2歳新馬		2014102201	アップビート	牝2				
				2016年11月26日	5回	東京	7	6R	2歳新馬		2014106474	サンライズノヴァ	牝2				
				2016年12月11日	5回	阪神	4	6R	2歳新馬		2014105778	スターカットダイヤ	牝2				
1096	株式会社 吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	2016年12月17日	5回	阪神	5	5R	2歳新馬		2013100624	フッシュニオスタ	牝2				
				2016年1月10日	1回	京都	3	4R	3歳新馬		2013100624	ストリクス	牝3				
				2016年1月11日	1回	中山	4	4R	3歳新馬		2013100946	ミラクルワインダ	牝3				
				2016年1月16日	1回	京都	5	4R	3歳新馬		2013100632	チャーム	牝3				
				2016年1月30日	2回	京都	1	6R	3歳新馬		2013103571	ヒラボクミライ	牝3				
				2016年1月31日	2回	京都	2	4R	3歳新馬		2013100469	ヒーローメーカー	牝3				
				2016年3月6日	1回	阪神	4	4R	3歳新馬		2013104237	ネクストムーブ	牝3				
				2016年10月13日	水	13回	門別	6	11R	エーテルアフィイス賞(指定交流)	Jpn III	2014110050	リエノテソーロ	牝2			
				2016年12月14日	水	10回	川崎	3	11R	全日本2歳優駿(指定交流)	Jpn I	2014110050	リエノテソーロ	牝2	16	945,600	945,600
				2016年11月19日	土	5回	京都	5	5R	2歳新馬		2014104010	ウォータービルト	牝2			
1097	株式会社 アクチファーム	加藤 祐嗣	北海道	2016年1月17日	1回	中京	2	6R	3歳新馬		2013104161	フライスガウ	牝3	2	118,200	118,200	
				2016年11月5日	土	5回	東京	1	5R	2歳新馬		2014101512	リヴェルチ	牝2	1	59,100	59,100
				2016年2月13日	土	1回	東京	5	11R	デリール杯クイーンC	G III	2013105840	メジャーエンブレム	牝3			
				2016年4月3日	日	3回	中山	4	11R	タービー卿チャレンジトロフィー	G III	2011103946	マジックタイム	牝5			
				2016年4月24日	日	2回	東京	2	11R	サンケイスポーツ賞フジローラS	G II	2013106005	チェッキーノ	牝3			
				2016年5月8日	日	2回	東京	6	11R	NHKマイルC	G I	2013105840	メジャーエンブレム	牝3			
				2016年5月8日	日	1回	新潟	4	11R	新潟大賞典	G III	2008103125	ハッシュンダンス	牝8			
				2016年6月12日	日	3回	東京	4	11R	エプソムC	G III	2012104669	ルージュバック	牝4			
				2016年7月3日	日	2回	福島	2	11R	ラジオNIKKEI賞	G III	2013105904	ゼーヴィント	牝3			
				2016年8月7日	日	2回	新潟	4	11R	レバードS	G III	2013106079	グレンツェント	牝3			
2009	有限会社 佐藤牧場	佐藤 傳二	東北	2016年8月14日	日	新潟	6	11R	関屋記念	G III	2012104685	ヤングマンパワー	牝4				
				2016年9月10日	土	4回	中山	1	11R	紫苑ステークス	G III	2013106013	ピツシュ	牝3			
				2016年10月9日	日	4回	東京	2	11R	毎日王冠	G II	2012104669	ルージュバック	牝4			
				2016年10月22日	土	4回	東京	6	11R	富士S	G III	2012104685	ヤングマンパワー	牝4			
				2016年11月20日	日	5回	京都	6	11R	マイルチャンピオンシップ	G I	2011103916	ミッキーマイル	牝5			
				2016年12月17日	土	5回	中山	5	11R	ターゴイズS	重賞	2011103946	マジックタイム	牝5	14	827,400	
				2016年4月23日	土	2回	東京	1	10R	メトロポリタンS	オープン	2012104650	モンドインテロ	牝4			
				2016年6月11日	土	3回	東京	3	11R	アールケステークス	オープン	2010110088	チャペリーアレイヴ	せん6			
				2016年12月24日	土	5回	中山	8	11R	師走ステークス	オープン	2013106079	グレンツェント	牝3			
				2016年10月1日	土	4回	阪神	7	5R	2歳新馬		2014103558	スズカフロンティア	牝2	1	59,100	59,100
2017	ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	2016年2月13日	土	1回	東京	5	11R	デリール杯クイーンC	G III	2013105840	メジャーエンブレム	牝3			
				2016年4月3日	日	3回	中山	4	11R	タービー卿チャレンジトロフィー	G III	2011103946	マジックタイム	牝5			
				2016年4月24日	日	2回	東京	2	11R	サンケイスポーツ賞フジローラS	G II	2013106005	チェッキーノ	牝3			
				2016年5月8日	日	2回	東京	6	11R	NHKマイルC	G I	2013105840	メジャーエンブレム	牝3			
				2016年5月8日	日	1回	新潟	4	11R	新潟大賞典	G III	2008103125	ハッシュンダンス	牝8			
				2016年6月12日	日	3回	東京	4	11R	エプソムC	G III	2012104669	ルージュバック	牝4			
				2016年7月3日	日	2回	福島	2	11R	ラジオNIKKEI賞	G III	2013105904	ゼーヴィント	牝3			
				2016年8月7日	日	2回	新潟	4	11R	レバードS	G III	2013106079	グレンツェント	牝3			
				2016年8月14日	日	2回	新潟	6	11R	関屋記念	G III	2012104685	ヤングマンパワー	牝4			
				2016年9月10日	土	4回	中山	1	11R	紫苑ステークス	G III	2013106013	ピツシュ	牝3			
2023	株式会社 MS速野	長尾 研司	東北	2016年10月9日	日	4回	東京	2	11R	毎日王冠	G II	2012104669	ルージュバック	牝4			
				2016年10月22日	土	4回	東京	6	11R	富士S	G III	2012104685	ヤングマンパワー	牝4			
				2016年11月20日	日	5回	京都	6	11R	マイルチャンピオンシップ	G I	2011103916	ミッキーマイル	牝5			
				2016年12月17日	土	5回	中山	5	11R	ターゴイズS	重賞	2011103946	マジックタイム	牝5	14	827,400	
				2016年4月23日	土	2回	東京	1	10R	メトロポリタンS	オープン	2012104650	モンドインテロ	牝4			
				2016年6月11日	土	3回	東京	3	11R	アールケステークス	オープン	2010110088	チャペリーアレイヴ	せん6			
				2016年12月24日	土	5回	中山	8	11R	師走ステークス	オープン	2013106079	グレンツェント	牝3			
				2016年10月1日	土	4回	阪神	7	5R	2歳新馬		2014103558	スズカフロンティア	牝2	1	59,100	59,100
				2016年10月1日	土	4回	中山	8	11R	師走ステークス	オープン	2013106079	グレンツェント	牝3			
				2016年10月1日	土	4回	阪神	7	5R	2歳新馬		2014103558	スズカフロンティア	牝2	1	59,100	59,100

会員番号	会員名	代表者	地域団体(支部)	開催日	回	場	日	R	競走名	重賞 オープン	血統番号	優勝馬名	性別	受賞金単価 数	TIDA 資金単価 数	会員別 計 (円)
3006	有限会社 オークリーフ	吉田 京子	関東	2016年11月13日	4回	福島	4	11R	第52回 農林水産省賞典福島記念	G III	2012100939	マルターズアボジー	牝4	1	59,100	59,100
3021	シンボリ牧場 有限会社	和田 孝弘	関東	2016年11月5日	5回	東京	1	6R	2歳新馬	G I	2014102667	シンボリバーヴ	牝2	1	59,100	59,100
3037	有限会社 ミボ分場	藤沢 美咲	関東	2016年10月2日	4回	中山	8	11R	第50回 スプリンターズS	G I	2011104416	レッドファルクス	牝5	1	59,100	
				2016年5月28日	2回	東京	11	11R	構ステークス	オープン	2011104416	レッドファルクス	牝5	1	39,000	98,100
3038	有限会社 ビックレッドファーム新田レーニングセンター	岡田 美佐子	関東	2016年6月26日	3回	東京	8	11R	パラダイスステークス	オープン	2011105236	マイネルアサルト	牝5			
				2016年10月2日	4回	阪神	8	11R	ポトアイランドステークス	オープン	2010105925	ウインフレイマ	牝6			78,000
3041	吉澤ステークスEAST	吉澤 克己	関東	2016年11月11日	1回	中山	4	11R	ポトアイランドステークス	G III	2013103288	ビービーバーレル	牝3	1	59,100	59,100
3043	有限会社 ジョイナスファーム	古谷 博	関東	2016年6月12日	3回	東京	4	5R	2歳新馬		2014100093	イブキ	牝2			
				2016年7月3日	2回	福島	2	6R	2歳新馬		2014102390	ハロインジャー	牝2	2	118,200	118,200
4005	有限会社 宇治田原優駿ステークス	八木 秀之	関西	2016年4月9日	3回	中山	5	11R	第3回 ニュージランドトロフィー	G II	2013104475	ダンツブリウス	牝3			
				2016年11月12日	5回	東京	3	11R	第21回 東京中田スホーツ杯武蔵野S	G III	2010105768	タガノホネル	せん6			
				2016年11月27日	5回	東京	8	11R	第36回 ジャパンC	G I	2012102013	キタサンブラック	牝4	3	177,300	
				2016年5月8日	2回	東京	6	10R	ブリリアントステークス	オープン	2012110098	アホケンタッキー	牝4			
				2016年5月15日	3回	京都	8	11R	栗東ステークス	オープン	2011105960	キングズガード	牝5			
				2016年12月18日	5回	阪神	6	10R	パテルギウスステークス	オープン	2012101502	ミツバ	牝4	3	117,000	294,300
4008	株式会社 クリーニングクラブ	永山 正喜	関西	2016年2月20日	1回	東京	7	11R	第66回 ダイヤモンドS	G III	2011100066	トウシクル	牝5			
				2016年8月7日	2回	小倉	4	11R	第52回 農林水産省賞典小倉記念	G III	2009105738	クランモンタナ	牝7	2	118,200	
				2016年4月10日	3回	中山	6	11R	春雷ステークス	オープン	2011110044	エイシンスバルタン	牝5			157,200
4016	株式会社 信楽牧場	中内田 克二	関西	2016年10月9日	4回	京都	2	11R	夕刊フジ杯オパールステークス	オープン	2011102579	ラインスピット	牝5			39,000
4027	株式会社 レッキスホースバーク	吉田 俊介	関西	2016年1月17日	1回	中山	6	11R	第56回 京成杯	G III	2013105830	プロフェット	牝3			
				2016年2月7日	2回	京都	4	11R	第56回 きさらぎ賞 (NHK 賞)	G III	2013106101	サトノダイヤモンド	牝3			
				2016年2月27日	1回	阪神	1	11R	第25回 アーリントンC	G III	2013106183	レインボーライン	牝3			
				2016年2月28日	1回	阪神	2	11R	阪急杯	G III	2011103916	シキアーイル	牝5			
				2016年3月5日	1回	阪神	3	11R	第23回 チューリップ賞	G III	2013105906	シンハラト	牝3			
				2016年3月12日	2回	中京	1	11R	第52回 中田新聞杯	G III	2010103602	サトノプレス	牝6			
				2016年3月20日	1回	阪神	8	11R	第64回 阪神大賞典	G III	2012104759	シュヴァルグラン	牝4			
				2016年4月24日	3回	京都	2	11R	第47回 誠亮マイラーズC	G II	2012104508	クルーガー	牝4			
				2016年5月29日	2回	東京	12	12R	第130回 農林水産省賞典黒田黒記念	G II	2012104713	クリトグラム	牝4			
				2016年6月19日	3回	東京	6	11R	第21回 ユニコーンS	G III	2013106119	ゴールドトロム	牝3			
				2016年10月29日	4回	京都	8	11R	第59回 毎日放送賞スワンS	G II	2011104063	サトノアザジン	牝5			
				2016年12月25日	5回	中山	8	10R	有馬記念	G I	2013106101	サトノダイヤモンド	牝3	12	709,200	
				2016年8月27日	2回	新潟	9	11R	BSN 賞	オープン	2011103833	ヒオネロ	牝5			748,200
4029	株式会社 吉澤ステークス WEST	吉澤 克己	関西	2016年2月7日	1回	東京	4	11R	第66回 東京新聞杯	G III	2010102459	スマートレイアー	牝6			
				2016年3月27日	2回	中京	6	11R	第46回 高松宮記念	G I	2011103328	ビッグアーサー	牝5			
				2016年4月9日	2回	阪神	5	11R	第59回 サンケイスポーツ杯阪神牝馬S	G II	2010102459	スマートレイアー	牝6			
				2016年12月24日	5回	阪神	8	11R	第11回 阪神C	G II	2013100783	シェユジ	牝3	4	236,400	
				2016年4月30日	3回	京都	3	11R	天王山ステークス	オープン	2011105438	ニシケンモノノフ	牝5			
				2016年7月17日	2回	福島	6	11R	バーデンバーデンカップ	オープン	2011104950	オウノミチ	牝5			314,400
5008	SUNDANCE EE	玉置 徹	九州	2016年9月4日	2回	小倉	12	5R	2歳新馬	オープン	2014101109	ケンピシヨ	牝2	1	59,100	59,100
5012	長谷川牧場	長谷川 一美	九州	2016年7月31日	2回	小倉	2	6R	2歳新馬	オープン	2014109161	カンノマスト	牝2	1	59,100	59,100

259 15,306,900 16 624,000 15,930,900
 競賞件数275・賞賛金計

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機会、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行う内容のものです。

貸付対象は大きく3種類に分けられます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵、その他協会が認める生産育成施設の改良、造成又は取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設、その他協会が認める生産育成用機械の改良、造成又は取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

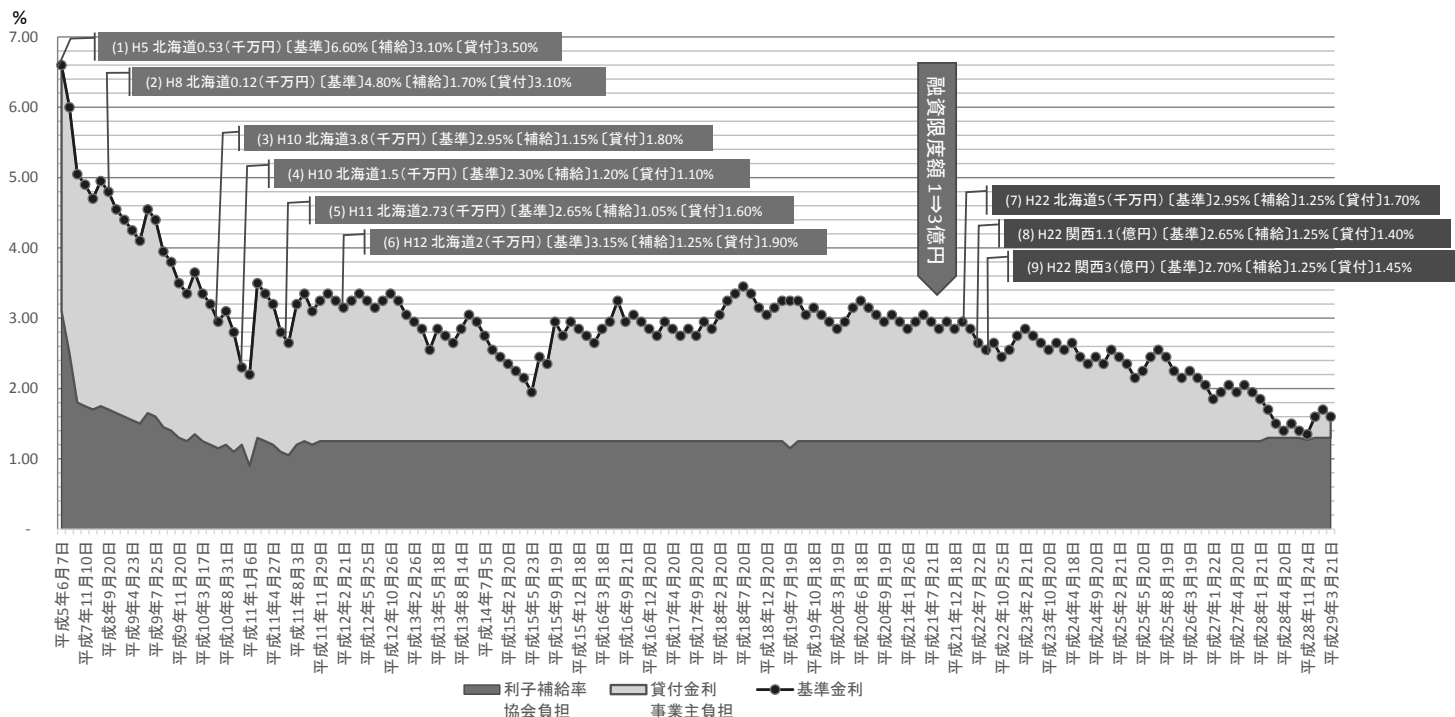
草地更新等整備に必要な資金

本事業は平成5年から国の農業近代化資金の制度に準じて実施されており、平成22年までに9件の実績があります。

平成28年は政府のマイナス金利施策により、農協以外の融資機関である銀行が育成牧場事業主に対し低利による融資提供に動いており、平成29年度8月の段階では継続2件（関西2件）、新規5件（北海道1件、関東3件、関西1件）、新規予定1件（北海道）となっています。実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会等があります。

本事業についてご利用希望の会員の方は協会業務部までご連絡ください。

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 H5～H29



競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減、経営の安定化を図る目的により、JRA 関連施設で使用を取りやめた競馬関連機材等について会員に再利用を斡旋する内容の事業であり、平成15年より実施されています。

平成28年度は12月に計6機材、平成29年度は第1回としてJRA 馬事公苑がオリンピック工事に入る関係で同苑提供により2月に計13機材が抽選の結果、会員に配布されています。応募が多く、希望者が重複する場合には、監事立会いのもと厳正なる抽選を実施し取得者を決定しています。平成28年度より抽選時の動画配信を実施していますので、結果等詳細は協会ホームページをご覧ください。

平成29年度は第2回目の機材情報提供を10月中旬に行うべく準備を進めていますので、各地域団体（支部）からのお知らせ、及び、適宜協会ホームページ

の確認をお願いいたします。（ウニモグ、トラクター、ハロー、馬場柵等、計18機材の予定。）

なお、応募される際の注意点等につきましては、協会ホームページ内の本事業実施要領及び事業実施のためのガイダンスと留意事項を事前に必ずご一読願います。無抽選の場合を除き、当該年度に一会員一機材の取得となりますことをご了承ください。前回、同種機材の抽選にもれた場合、一回に限り同種機材への優先倍率が適用されます。機材によっては、残存減価償却費分の有償物件であったり、要修理物件、特殊機械の種別により高額な輸送費負担が想定されることがありますので、抽選後のキャンセル等無きよう、事前に熟考していただいた上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA および JRAF 関係者のご協力を得ながら、情報収集に努めてまいります。

平成28年度 競馬関連機材等有効活用事業 競馬関連機材等の抽選結果について 〔H28 第1回 6件 平成28年12月7日抽選〕

機材等名および選定取得会員所属地域団体（支部）

No.	機材等名	台数	提供者	取得年月日	売却価格(税込)	取得希望会員数倍率	取得会員所属地域団体(支部)
H28-1回-1号	FRP 製馬場柵 (2,100m)〔東京〕	2,100 m	日本中央競馬会 東京競馬場	平成14年 〔2002〕	無償	11会員 うち優先6 17倍	関東
H28-1回-2号	パワーハロー (幅2.5m)〔札幌〕	1台	日本中央競馬会 札幌競馬場	平成5年 〔1993〕	無償	12会員 12倍	北海道
H28-1回-3号	爪ハロー (幅6m)〔美浦F〕	1台	JRA ファシリティーズ 株式会社 美浦事業所	平成20年 〔2008〕	無償	2会員 2倍	関東
H28-1回-4号	ウニモグ (ベンツ社製)〔宮崎〕	1台	日本中央競馬会 宮崎育成牧場	平成9年 〔1997〕	無償	7会員 うち優先4 11倍	関東
H28-1回-5号	散水車 〔学校〕	1台	日本中央競馬会 競馬学校	平成6年 〔1994〕	無償	7会員 7倍	関東
H28-1回-6号	散水車 〔日高〕	1台	日本中央競馬会 日高育成牧場	平成5年 〔1993〕	無償	12会員 うち優先2 14倍	北海道

※優先倍率の適用について：前回、機材等の抽選に外れた取得希望会員へは次回同種物件の抽選時、一回に限り2個の玉を投入することとしています

抽選結果については、当協会ホームページ（<http://www.ttda.or.jp/>）に掲載しています

平成29年度 競馬関連機材等有効活用事業 競馬関連機材等の抽選結果について
〔H29 第1回 9件 13台 平成29年2月8日抽選〕

機材等名および選定取得会員所属地域団体（支部）

No.	機材等名	台数	提供者	取得年月日	売却価格(税込)	取得希望会員数倍率	取得会員所属地域団体(支部)
H29-1回-1号	ミキシングハロー (幅 4m)	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	昭和61年 〔1986〕	無償	5会員 うち優先1 6倍	関東
H29-1回-2号	吊上式爪ハロー (幅 3m)	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成3年 〔1991〕	無償	5会員 うち優先1 6倍	関東
H29-1回-3号	レベルハロー (幅 2.5m)	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成4年 〔1992〕	無償	5会員 5倍	関西
H29-1回-4号	振動ローラー (コマツ JV28型)	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	昭和60年 〔1985〕	無償	20会員 20倍	北海道
H29-1回-5号	小型自走ローラー	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成11年 〔1999〕	無償	5会員 うち優先1 6倍	関東
H29-1回-6号	ソッドカッター	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成7年 〔1995〕	無償	4会員 うち優先1 5倍	関東
H29-1回-7号	パーチカルモア	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成7年 〔1995〕	無償	10会員 うち優先1 11倍	関東
H29-1回-8号	ローターベーター ハワード AR80	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	昭和59年 〔1984〕	無償	4会員 4倍	北海道
H29-1回-9号 ①番	歩行型芝刈機 ホンダ HRC216	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成17年 〔2005〕	無償	15会員 3倍	関東
H29-1回-9号 ②番	歩行型芝刈機 ホンダ HRC216	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成13年 〔2001〕	無償	15会員 3倍	関東
H29-1回-9号 ③番	歩行型芝刈機 ホンダ HRC216	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成9年 〔1997〕	無償	15会員 3倍	関東
H29-1回-9号 ④番	歩行型芝刈機 ホンダ HRC216	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成9年 〔1997〕	無償	15会員 3倍	北海道
H29-1回-9号 ⑤番	歩行型芝刈機 ホンダ HRC216	1台	日本中央競馬会 馬事公苑	平成8年 〔1996〕	無償	15会員 3倍	関東

※優先倍率の適用について：前回、機材等の抽選に外れた取得希望会員へは
次回同種物件の抽選時、1回に限り2個の玉を投入することとしています

軽種馬経営高度化指導研修（人材養成）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

1. 生産育成技術者海外派遣事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1/2を上限に補助金を交付するものです。

昨年度は、（公財）軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第33期卒業生5名の他、3月6日から6月2日の日程でアメリカへ1名、8月10日から11月8日の日程で同じくアメリカへ1名、8月30日から11月22日の日程で豪州へ1名、10月29日から11月4日の日程で豪州へ6名、11月6日から11月13日の日程でイギリス・アイルランドへ8名の研修生を派遣しました。

本年度は、（公財）軽種馬育成調教センター及び関西支部から推薦のあった同センター第34期卒業生5名を5月11日から8月7日までの約3ヶ月間、アイルランド競馬学校 RACE（Racing Academy & Centre of Education）に派遣し、7月15日から8月16日の日程でフランスへ1名派遣しています。

また、11月には会員関係者を対象にした短期研修が予定されており、その他の研修についても随時受け付けを実施しております。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者の内、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、（公社）日本軽種馬協会、（公財）軽種馬育成調教センター及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者を審査対象としています。

平成29年1月から3月に申請を受け、承認された件数は合計4件でした。

3. 生産育成牧場就業者参入

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

BOKUJOB メインフェアを中心に日帰り見学会や夏休みを利用した滞在型体験会などの開催、Web サイトによる生産育成調教場の周知、仕事内容等の情報発信などを主な活動としており、平成29年度の活動状況並びに予定は以下の通りです。

◎「牧場で働こう見学会」

（関東地区）3月4日「ビッグレッドファーム銚田」、「KS トレーニングセンター」、「松風馬事センター」
（関西地区）3月11日「グリーンウッドトレーニング」、「信楽牧場」、「ノーザンファームしがらき」

◎「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB 2017 メインフェア」

6月3・4日「JRA 東京競馬場」スタンド1階イーストホール

◎「競走馬の牧場で生きていく BOKUJOB 2017 関西フェア」

6月24・25日「JRA 阪神競馬場」アメニティホール1階
上記のようなイベントを継続的に実施することにより就活適齢期の対象者はもとより、それ以前の年齢層に対しても訴求効果が現れていると事務局では考えています。

◎「夏休み牧場で働こう体験会」

7月30日～8月4日（5泊6日）
協力：「岡田牧場、杵臼牧場、グランド牧場、様似町軽種馬共同育成センター、谷口牧場、宮内牧場」

◎「BOKUJOB 2017 広報&相談コーナー」

5月3日
「JRA 栗東トレーニング・センター」馬に親しむ日
7月15日・16日
「JRA 中京競馬場」
7月25日・26日
「インターハイ馬術競技大会会場（御殿場市）」
8月12日・13日
「JRA 札幌競馬場」
8月27日
「JRA 宮崎育成牧場」馬に親しむ日

9月2日・3日

「JRA 小倉競馬場」

10月7日・8日

「JRA 東京競馬場」(実施予定)

本年度は上記の場所でも広報&相談コーナーを設置し、牧場就業促進活動を展開しています。

◎生産・育成牧場就職応援サイト「BOKUJOB.com」の運営

求人牧場掲載は無料ですので、会員の皆様のご利用をお待ちしております

◎「BOKUJOB ブログ」について

ブログに投稿していただける牧場を募集しています。「BOKUJOB」サイトの求人情報に拘らず、牧場の日々をご披露いただくなど、牧場就労に興味を持っていただけるように紹介しています。インターネットにて「BOKUJOB」、若しくは、「BOKUJOB ブログ」で検索していただくか、こちらのアドレスを入力ください「<http://blog.bokujob.com/>」。

お知らせ

賛助会員のご紹介

平成29年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤英忠

Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177

300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗

Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2002

272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12市川ガーデンア512

株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武

Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885

520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下與一

Tel.06-6780-5270 Fax.06-6780-5280

571-0046 大阪府門真市本町6-8

株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫

Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413

321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄

Tel.077-558-2468 Fax.077-558-2001

520-3004 滋賀県栗東市上砥山906-1

株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏

Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7002

501-3822 岐阜県関市市平賀811

株式会社 渡邊商店

代表取締役 渡邊義之

Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715

153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12



愛馬の健康管理は3種類の予防接種から

監視伝染病である馬インフルエンザ・日本脳炎・破傷風の
予防接種を実施しましょう！

3つの監視伝染病について

馬インフルエンザ(届出伝染病)

馬インフルエンザは、ウイルス感染によって起こる急性の呼吸器感染症です。人のインフルエンザとは異なり、冬だけでなく一年を通じて流行するのが特徴です。著しく伝染力が強いいため、短期間に多数の馬が感染します。2016年から発売されている最新のワクチンには、海外で流行が確認されており、OIE(国際獣疫事務局)がワクチン株として推奨しているフロリダ亜系統クレード1のIbaraki/O7株およびクレード2のYokohama/10株が含まれています。

- 【症状】
- ・40℃前後の高熱
 - ・元気・食欲の低下
 - ・強い乾性の咳
 - ・水様性の鼻汁

日本脳炎(法定伝染病)

日本脳炎ウイルスは、蚊(主として「コガタアカイエカ」)の媒介によって馬や人に脳炎を起こします。しかし、馬から人、人から馬に直接伝染することはありません。

- 【症状】
- ・40℃前後の高熱
 - ・頭部を下げ、日光を避けて壁などに寄りかかる沈うつ状態を示す(麻痺型)。
 - ・前掻きや旋回運動を繰り返し、時には狂騒状態を示す(興奮型)。
 - ・軽症例では、脳炎を伴わないこともある。

破傷風(届出伝染病)

土壌中に生息している破傷風菌は、傷口から感染し、体内で増殖して毒素を産生します。この毒素が運動中枢神経を侵すことによって、特有の神経症状を示します。破傷風は人を始め多くの動物がかかる感染症ですが、特に馬は破傷風菌に対する感受性の高い動物として知られています。

- 【症状】
- ・全身の筋肉の硬直や痙攣
 - ・呼吸困難
 - ・全身の発汗
 - ・外的刺激への過剰反応

休養中あるいは育成中の
競走馬や乗馬などにも
予防接種を徹底しましょう！

予防接種について

軽種馬防疫協議会では、以下のとおり馬の予防接種要領を定めています。予防接種については、獣医師に相談してください。

★馬の予防接種要領★

●馬インフルエンザ

初回は使用説明書に基づいて2回接種(基礎免疫)し、以降半年に1回(春季・秋季)の補強接種を実施すること。
※予防接種間隔が1年を越えた場合は、再度基礎免疫から実施すること。

●日本脳炎

使用説明書に基づいて、その年の流行期前の5月～6月に2回接種すること。
※5月～6月に接種が完了していない場合でも、必ず10月末までに接種すること。

●破傷風

初回は使用説明書に基づいて2回接種(基礎免疫)し、翌年からは年に1回の補強接種を実施すること。
※前年の接種歴がない場合は、再度基礎免疫から実施すること。

- 各主催者・団体等が更に詳細な要件を定める場合は、その指示に従うこと。
- 予防接種を実施した場合は、「馬の健康手帳」の「各種予防接種実施証明書欄」に、予防液のメーカー、製造番号、接種日、実施者等の必要事項を漏れなく記入すること。

集団で定期的な予防接種を
心がけましょう！

馬の移動について

馬の移動に際しては、移動歴の記入および予防接種の証明を受けた「馬の健康手帳」を携行しましょう。



このリーフレットは軽種馬防疫協議会ホームページからダウンロードできます

www.keibokyo.com

軽種馬防疫協議会

東京都港区六本木6-11-1
日本中央競馬会本部馬事部防疫課内

TEL : 03-5785-7517・7518
FAX : 03-5785-7526

◆ 地方競馬の馬主になりたい

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

インターネット「地方競馬 馬主」で検索。

地方競馬 馬主

検索

または、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト <http://www.keiba.go.jp/owner.html>でもご覧いただけます。

〔問合せ先〕 担当：地方競馬全国協会 審査部 登録課 電話 03-3583-2142 (平日 9時30分～17時30分)

◆ あなたも装蹄師になりませんか？

平成30年度の装蹄師認定講習会（1年間全寮制）の講習生を募集しています。

出願受付期間：平成29年11月20日（月）～12月17日（日）

試験日：平成30年1月16日（火）

受験資格：平成30年4月1日時点で満18歳以上の者

募集人員：若干名

試験会場：JRA 新橋分館（東京都港区新橋4-5-4）

詳細についてはお問い合わせください。

公益社団法人 日本装蹄協会 装蹄教育センター
〒320-0851

栃木県宇都宮市鶴田町1829-2

TEL 028-648-0007 担当 山内

<http://sosakutei.jrao.ne.jp/>（ホームページ）

◆ 競走馬育成協会人事異動

【退任】

総務部長

中尾 剛規

【就任】

総務部長

中本 光亮

◆ ホームページのご案内

ホームページに毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。他、各種事業内容等掲載されていますのでご活用ください。



いくせい

2017 55号

発行日 平成29年9月30日

発行 公益社団法人 競走馬育成協会

〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4

日本中央競馬会新橋分館4階

TEL. 03(6809)1821 FAX. 03(6809)1822

E-mail: kgj00522@nifty.ne.jp

URL: <http://www.ttda.or.jp>

編集責任者 佐藤光信

制作・印刷 西谷印刷株式会社

